

鑛業人未成年瘋癲白痴又ハ瘖啞ニシテ此ノ罰則ヲ犯シタルトキハ其ノ後見人ヲ處罰ス

第九章 附則

第八十九條 此ノ條例實施以前ニ許可ヲ得タル試掘人又ハ借區人ハ其ノ許可ヲ得タル年限中試掘又ハ鑛業ヲ爲スコトヲ得

第九十條 此ノ條例實施以前ニ借區人ノ許可ヲ得借區年限滿期後尙ホ引續キ鑛業ヲ爲サントスル者ハ借區滿期以前ニ此ノ條例ニ依リ出願スヘシ

第九十一條 此ノ條例ノ施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第九十二條 此ノ條例ハ明治二十五年六月一日ヨリ施行ス明治六年太政官第二二百五十九號布告日本坑法ハ同日限之ヲ廢止ス

○鑛業條例施行細則明治二十七年七月農商務省令第六號

鑛業條例施行細則左ノ通改正ス

鑛業條例施行細則

第一條 鑛業條例ニ依リ差出ス願書又ハ届書ニシテ登録稅法第十四條ノ事項ニ係ルモノハ第十四號書式ニ從ヒ相當登記印紙ヲ貼用シタル上納書ヲ添フヘシ(二十九年農商務省令第四號ヲ以テ各項トモ改正)

前項以外ノ願書又ハ請求書ニシテ明治二十七年勅令第百號ノ事項ニ係ルモノハ願書又ハ請求書ニ相當登記印紙ヲ貼用シ差出スヘシ

願書ハ第一號ヨリ第十三號ニ至ル書式ニ從ヒ之ヲ認メ試掘地略測圖、鑛區略測圖、試掘地實測圖、鑛區實測圖、鑛業施業案、鑛業條例第三十九條ノ届書及同條例第四十條ノ帳簿ハ第一號ヨリ第五號ニ至ル雛形ニ準シ調製スヘシ

第二條 試掘願書及試掘地實測圖ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ニ第一號雛形ノ試掘地略測圖ヲ添ヘ差出シ置キ試掘地實測圖ハ出願ノ日ヨリ五十日以内ニ差出スヘシ

第三條 鑛業條例第十二條第二項ニ依リ願書ノミ差出ストキハ第一號雛形ノ鑛區略測圖ヲ添フヘシ

第四條 願書届書請求書施業案及圖面ニ代印セシムルトキハ之ニ委任狀ノ正本ヲ添フヘシ

第五條 試掘地ノ區域ハ鑛業條例第四十一條第二項ニ依ルヘシ
第六條 試掘地若クハ鑛區最短徑ハ其最長徑ノ四分ノ一ヨリ下ルコトヲ得ス
但所轄鑛山監督署長ニ於テ適當ト認ムルトキハ本文ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第七條 鑛業人ノ承諾ヲ經スシテ其試掘地若クハ鑛區ニ接近シ試掘地若クハ鑛區ヲ得ントスル者ハ其中間二十間以上ノ距離ヲ置キ出願スヘシ
所轄鑛山監督署長ニ於テ鑛利ヲ保護スル爲メ必要ト認メタルトキハ五十間迄前項ノ距離ヲ延長セシムルコトヲ得

第八條 鑛業ニ關スル願書若クハ圖面不完備ナルトキハ所轄鑛山監督署長ハ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ修正若クハ補充セシムヘシ

第九條 試掘願探掘願ハ鑛山監督署長ニ於テ實測圖受理ノ日ヨリ五日以内ニ出願地所在ノ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ特別ノ理由アル場合ヲ除クノ外三十日以内ニ其事業公益ニ害アルヤ否及出願地ノ字名公簿ニ符合スルヤ否ヲ取調ヘ其意見ヲ試掘ニ付テハ所轄鑛山監督署長ニ通知シ探掘ニ付テハ農商務大臣ニ上申スヘシ

第十條 試掘地若クハ鑛區訂正願及出願中ニ係ル區域變更願ハ總テ試掘願若クハ探掘願ノ手續ニ依ルヘシ

第十一條 試掘延期ハ滿期前ニ出願シ試掘ノ成績及事業ヲ竣ヘ難キ事由ヲ詳記スヘシ

第十二條 鑛業條例第十三條ニ依リ鑛物ノ存在ヲ證明スルニハ願書發送ノ日ヨリ三十日以内ニ其鑛

物ノ標品又ハ證明書ヲ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第十三條 鑛業人及鑛業出願人所轄鑛山監督署長ヨリ實地調査ノ爲メ立會ノ通知ヲ受ケタルトキハ指定ノ期日ニ立會フヘシ

第十四條 鑛業人及鑛業出願人所轄鑛山監督署長ヨリ圖面又ハ書類ノ差出ヲ命セラレタルトキハ指定ノ期日内ニ之ヲ差出スヘシ

第十五條 鑛業特許證書換願、鑛區訂正願、鑛區合併若クハ分割願、探掘權書入登錄願及鑛業條例第九十條ニ依レル探掘特許願ニハ鑛業特許證若クハ借區券ヲ添フヘシ

第十六條 坑内實測圖ハ毎年二月七月ノ兩度ニ之ヲ調製シ前期末日ノ現況ヲ記載スヘシ
坑内實測圖ハ前項調製期月ノ翌月中ニ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ

但前實測圖ト交換スルコトヲ得

第十七條 鑛業條例第三十一條第三項ノ證明ヲ必要トスル者ハ其理由ヲ詳記シタル請求書ヲ差出スヘシ

第十八條 鑛業條例第三十九條ノ屆書ハ届出ツヘキ事項ナキ場合ト雖モ其旨ヲ記載シ差出スヘシ

第十九條 鑛業條例第三十九條ノ屆書ハ鑛業ヲ廢止又ハ讓渡シタル場合ニ於テハ廢業又ハ讓渡ノ日ヨリ三十日以内ニ差出スヘシ

但届出ツヘキ事項ナキ場合ト雖モ其旨ヲ記載シ差出スヘシ

第二十條 鑛業條例第四十七條ニヨリ測量ノ認可ヲ受ケントスル者ハ測量スヘキ土地ノ地名ヲ明記シタル請求書ヲ差出スヘシ

但土地ノ所有者又ハ關係人ニ於テ承諾シタルトキハ認可ヲ受ルヲ要セス

第二十一條 鑛業條例第三十五條第三十六條又ハ第五十五條ニ依リ鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スルモノハ其理由ヲ記載シタル請求書ニ詳細ノ實測圖其他關係書類ヲ添ヘ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ

鑛業條例第五十五條土地貨渡ノ場合ニハ前項書類ノ外建設スヘキ工事ノ設計書ヲ添フヘシ

第二十二條 鑛山監督署長前條ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ對手人ニ通知シ相當ノ期限ヲ定メ辯明書ヲ差出サシムヘシ

第二十三條 試掘人ハ試掘地實測圖ヲ探掘人ハ左ノ書類ヲ鑛業事務所ニ備置クヘシ

- 一 鑛區實測圖
- 二 坑內實測圖
- 三 鑛業施業案
- 四 鑛業條例第四十條ノ帳簿

第二十四條 鑛業人自ラ鑛業ヲ管理セサルトキハ代理人ヲ置キ其旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

前項代理人ノ權限左ノ如シ

- 一 鑛山監督署ヨリ發スル命令通知ヲ受クルコト
 - 二 鑛業施業案ノ認可ヲ受クルコト
 - 三 坑內實測圖ヲ差出スコト
 - 四 鑛業條例第三十九條ノ届書ヲ差出スコト
 - 五 鑛夫使役規則及鑛夫救恤規則ノ認可ヲ受クルコト
 - 六 鑛業税及鑛區税ヲ納ムルコト
 - 七 本則第十八條及第十九條ノ届書ヲ差出スコト
 - 八 鑛業警察規則第十七條及第十九條ノ届書ヲ差出スコト
 - 九 鑛業警察規則第十八條ノ場合ニ於テ必要ノ事務ヲ處辨スルコト
- 第二十五條 鑛業ヲ相續シタルモノハ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ十五日以内ニ其旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ
- 但探掘權ヲ相續シタル者ハ其届書ニ鑛業特許證ヲ添フヘシ

第二十六條 鑛業條例第三十條第三十三條第二項第三十四條第二項第四十三條第二項及第七十六條

ニ依リ行政裁判所ニ出訴シタルトキ及同條例第三十四條第一項ニ依リ農商務大臣ニ訴願シタルトキハ七日以内ニ其旨所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

第二十七條 鑛業ニ關スル書類ハ一通毎ニ一件ヲ限リ認ムヘシ

試掘願探掘願試掘地若クハ鑛區訂正願及出願中ニ係ル區域變更願ハ總テ一件毎ニ別封トシ書留郵便ヲ以テ差出スヘシ

前項ノ書類ヲ差出ストキハ發送郵便局ヨリ受付ノ年月日及時刻ヲ記入シタル受領書ヲ請置クハシ

第二十八條 鑛業ニ關スル書類ヲ郵便ニテ差出タルトキハ發送郵便局消印ニ依リ差出ノ日時ヲ定ムルモノトス

試掘願探掘願試掘地若クハ鑛區訂正願及出願中ニ係ル區域變更願ニ付キ日時ノ前後ヲ定ムルニハ前條第三項ノ日時ヲ以テス

但前條第三項ノ受領書ナキモノハ本條第一項ニ依ル

第二十九條 試掘又ハ探掘ノ廢業届書ハ書留郵便ヲ以テ差出スヘシ

廢業ノ日時ハ届書差出ノ日時ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 鑛業ニ關シ農商務省又ハ鑛山監督署ニ差出シタル書類ハ其下戻ヲ強要スルコトヲ得ス

第三十一條 左ニ掲クル出願、届出及請求ハ之ヲ受理セス(二十九年農商務省令第四號ヲ以テ本條并ニ第一ヲ改正ス)

一 登録稅法第十四條ノ登録稅又ハ明治二十七年勅令第百號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用セザルモノ

二 圖面添屬ナキ試掘願探掘願試掘地若クハ鑛區訂正願及出願中ニ係ル區域變更願

三 添屬圖面中出願區域不分明ナル試掘願探掘願試掘地若クハ鑛區訂正願及出願中ニ係ル區域變更願

四 書留郵便ヲ以テ差出サ、ル試掘願探掘願試掘地若クハ鑛區訂正願及出願中ニ係ル區域變更願

第三十二條 左ノ場合ニ於テハ出願ヲ無効トス

一 本則第二條ノ期限内ニ試掘地實測圖ヲ差出サ、ルトキ

二 本則第八條ニ依リ所轄鑛山監督署長ノ定メタル期限内ニ修正若クハ補充ヲナサ、ルトキ

三 本則第十二條ノ期限内ニ鑛物標品又ハ證明書ヲ差出サ、ルトキ

四 正當ノ理由ナク本則第十三條ノ立會ヲ爲サ、ルトキ

五 出願地臨檢ノ際出願區域ヲ明示スル能ハサルトキ

六 添屬ノ實測圖實地ト著シク相違スルトキ

七 出願人ノ住所不分明ナルトキ

第三十三條 鑛業條例第三十九條ノ届出ヲナサ、ル者本則第十三條第十四條第十八條又ハ第十九條ヲ犯シタル鑛業人ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 本則第二十三條(第二號ヲ除ク)第二十四條第一項又ハ第二十六條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十五條 本則第二十五條ヲ犯シタル者ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

附則

第三十六條 鑛業條例施行以前ニ差出シタル試掘願書若クハ借區願書ニシテ同條例施行ノ日マテニ處分ヲ終ラサルモノハ總テ同條例ニ依レル試掘願書若クハ探掘願書ト看做シ處分スヘシ

第三十七條 本則施行以前ニ差出シタル願書ニシテ本則施行ノ日マテニ處分ヲ終ラサルモノハ總テ本則ニ依レル願書ト看做シ處分スヘシ

第三十八條 本則ハ明治二十七年八月二十日ヨリ施行ス明治二十五年農商務省令第六號鑛業條例施行細則ハ同日限リ之ヲ廢止ス

(書式略之(二十九年農商務省令第四號ヲ以テ書式追加))

◎砂鑛採取法明治二十六年三月法律第十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル砂鑛採取法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

砂鑛採取法

第一條 此ノ法律ニ於テ砂鑛トハ砂金、砂錫、及砂鐵ヲ謂フ

第二條 砂鑛ヲ採取セムト欲スル者ハ所轄鑛山監督署長ヲ經由シ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 採取ノ事業ヲ讓渡サムトスルトキハ所轄鑛山監督署長ヲ經由シ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ(二十八年四月法律第三十號ヲ以テ本條并ニ次項トモ追加)

共同採取人中ニ於テ除名スルトキハ其ノ人名ヲ所轄鑛山監督署長ニ届出ヘシ

第四條 帝國臣民ニ非サレハ採取人トナリ又ハ採取業ニ關スル組合員又ハ會社員トナルコトヲ得ス(二十八年四月法律第三十號ヲ以テ第三條ヲ第四條ニ改メ以下順次繰下ク)

採取人未成年、瘋癲、白痴又ハ瘡癩ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

農商務省鑛山局及鑛山監督署ノ官吏ハ在職中採取人トナリ又ハ採取業ニ關スル組合員又ハ會社員トナルコトヲ得ス

第五條 採取區域内ノ土地他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者又ハ關係人ノ承諾ヲ受クヘシ

土地所有者又ハ關係人ハ自ラ採取ヲ出願スルトキノ外前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス但シ承諾ヲ與フルトキハ相當ノ砂鑛採取料ヲ要求スルコトヲ得

第六條 採取ノ事業公益ヲ害スト認ムルトキハ農商務大臣ハ其ノ出願ヲ許可セス

第七條 採取ノ事業公益ニ害アルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル許可ヲ取消スコトヲ得

第八條 採取業上ニ危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ所轄鑛山監督署長ハ採取人ニ其ノ豫防ヲ命シ又ハ採取業ヲ停止スヘシ

所轄鑛山監督署長ニ於テ採取業ヲ停止セムトスルトキハ其ノ猶豫シ難キ場合ヲ除クノ外ハ農商務大臣ノ認可ヲ經ヘシ

採取業ヲ停止シタル後其ノ事故止ミタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ停止ヲ解クヘシ

第九條 採取人前條ニ依リ命セラレタル豫防ヲ怠ルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル許可ヲ取消スコトヲ得

第十條 採取人正當ノ理由ナクシテ一箇年以上休業シ又ハ採取ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ一箇年以内ニ採取ニ着手セサルトキハ農商務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十一條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ採取ノ許可ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スヘシ若シ其ノ許可ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ許可ノ日ヨリ三十日以内ニ其ノ許可ノ取消ヲ農商務大臣ニ請求スルコトヲ得

第十二條 第七條第九條第十條及第十一條ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十三條 採取許可取消ノ處分ヲ受ケタル採取人ハ同一區域ニ付一箇年間採取ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 左ノ場合ニ於テ採取人他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ必要トシ其ノ貸渡ヲ請求シタルトキハ其ノ土地所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

一 洗鑛ノ爲

一 製鍊所建設ノ爲

一 洗滌用水路及溜池開設ノ爲

第十五條 採取人ハ使用スル土地ニ對シ其ノ土地所有者ニ相當ノ借地料ヲ仕拂フヘシ

其ノ質入トナリタル土地ニ對スル借地料ハ質取主ニ於テ之ヲ受領スルモノトス

土地使用ニ依リ貸渡人又ハ關係人ニ損害ヲ加フルトキハ採取人ハ之ニ對シ相當ノ賠償ヲ爲スヘシ

第十六條 採取人借地料ノ仕拂ヲ延滞シタルトキハ土地所有者ハ其ノ土地ヲ取戻スコトヲ得

第十七條 第十三條ノ場合ニ於テ採取人五箇年以上土地ヲ使用スルトキハ其ノ土地所有者ハ土地ノ買取ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ採取人ハ其ノ買取ヲ拒ムコトヲ得ス

第十八條 採取人ノ請求ニ依リ土地ヲ分轄シテ賣渡シ又ハ貸渡シタルカ爲殘地ノ利用ヲ害スルトキハ土地所有者ハ採取人ニ對シ其ノ土地全部ノ買取若ハ借受ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ採取人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十九條 土地所有者又ハ關係人ト採取人トノ間ニ於テ土地貸渡、採取料、借地料、損害賠償金又ハ土地賣買代金ニ付協議調ハサルトキハ所轄鑛山監督署長ニ其ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アルトキハ其ノ判定ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ土地貸渡ニ就テハ農商務大臣ニ其ノ裁定ヲ請求シ採取料、借地料、損害賠償金若ハ土地賣買代金ニ就テハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得
前項農商務大臣ノ裁定ニ對シテハ他ニ出訴スルコトヲ得ス

第二十條 所轄鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定請求ノ爲ニ要スル費用ハ民事訴訟費用ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第二十一條 採取人ハ土地所有者又ハ關係人ニ於テ所轄鑛山監督署長ノ判定シタル採取料、借地料、損害賠償金又ハ土地賣買代金ニ不服アルモ其ノ金額ヲ土地所有者又ハ關係人ニ渡シ若之ヲ受ケザルトキハ其ノ金額ヲ供託所ニ預置キ土地ヲ使用スルコトヲ得

第二十二條 許可ヲ得スシテ採取ヲ爲シタル者又ハ詐偽ニ由リテ許可ヲ得タル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第二十三條 此ノ法律施行以前ニ許可ヲ得タル採取人ハ此ノ法律ニ依リ引續キ其ノ業ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 砂鑛採取ノ警察其ノ他國土保安ニ關シ必要ナル規定及此ノ法律ノ施行細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十五條 此ノ法律ハ明治二十六年四月一日ヨリ施行ス

○砂鑛採取法施行細則 明治二十七年七月 農商務省令第七號

砂鑛採取法施行細則左ノ通改正ス

砂鑛採取法施行細則

第一條 砂鑛採取ノ願書ハ第一號乃至第三號書式ニ從ヒ之ヲ認メ第一號又ハ第二號雜形ニ依リ調製シタル採取區域ノ實測圖ヲ添ヘ明治二十七年勅令第百號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ差出スヘシ (二十八年八月農商務省令 第八號ヲ以テ條中改正)

但砂鑛採取ノ願書ニハ登記印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第二條 採取區域内ノ土地他人ノ所有ニ係ルトキハ採取願書ニ土地所有者又ハ關係人ノ承諾書ヲ添

砂鑛採取法施行細則

フヘシ若シ承諾ヲ得ル能ハサルトキハ其旨ヲ記シタル書面ヲ添フヘシ
土地所有者又ハ關係人砂鑛採取ノ出願ヲ承諾セサルトキハ所轄鑛山監督署長ハ六十日以内ノ期限
ヲ定メ其土地所有者又ハ關係人ニ採取願書ノ差出シヲ命スヘシ若シ此期限内ニ願書ヲ差出サハ
トキハ出願セサルモノト看做スヘシ

第三條 鑛山監督署長砂鑛採取ノ願書ヲ受理シタルトキハ五日以内ニ之ヲ出願地所在ノ地方長官ニ
通知スヘシ

地方長官前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ土地ノ狀況ニ依リ特別ノ理由アル場合ヲ除クノ外三十日
以内ニ採取ノ事業公益ニ害アルヤ否及出願地ノ字名公簿ニ符合スルヤ否竝ニ出願地所有者ノ住所氏
名ヲ取調ヘ其意見ヲ農商務大臣ニ上申スヘシ

第四條 砂鑛採取ニ關スル願書若クハ圖面不完備ナルトキハ所轄鑛山監督署長ハ相當ノ期限ヲ定メ
之ヲ修正若クハ補充セシムヘシ

第五條 砂鑛採取人及砂鑛採取ノ出願人所轄鑛山監督署長ヨリ實地調査ノ爲メ立會ノ通知ヲ受ケタ
ルトキハ指定ノ期日ニ立會フヘシ

第六條 砂鑛採取人及砂鑛採取ノ出願人所轄鑛山監督署長ヨリ圖面又ハ書類ノ差出ヲ命セラレタル
トキハ指定ノ期日以内ニ之ヲ差出スヘシ

第七條 願書届書請求書及圖面ニ代印セシムルトキハ之ニ委任狀ノ正本ヲ添フヘシ

第八條 砂鑛採取法第十一條ニ依リ採取許可ノ取消ヲ請求スル者及同法第十九條ニ依リ所轄鑛山監
督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スル者ハ其理由ヲ記載シタル請求書ニ關係書類ヲ添ヘ
所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ(二十八年八月農商務省令
第八號ヲ以テ修正)

第九條 鑛山監督署長前條ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ對手人ニ通知シ相當ノ期限ヲ定メ辯明
書ヲ差出サシムヘシ

第十條 採取人ハ毎年二月第三號雛形ニ從ヒ調製シタル前年中ノ採取業明細表ヲ所轄鑛山監督署ニ
差出スヘシ

採取業ヲ廢止又ハ讓渡シタルトキハ三十日以内ニ前項ノ明細表ヲ差出スヘシ(二十八年八月農商務省
令第八號ヲ以テ修正)
休業ノ場合ニ於テ明細表ニ掲クヘキ事項ナキトキハ前兩項ノ期日以内ニ其旨届出ヘシ(二十八年八月農
務省令第八號
ヲ以テ
追加)

第十一條 採取業ヲ相續シタルモノハ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ十五日以内ニ其旨ヲ所轄鑛山監督署
ニ届出ツヘシ

第十二條 採取人廢業シタルトキハ其旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ
前項廢業ノ日時ハ届書差出ノ日時ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 砂鑛採取ニ關スル書類ヲ郵便ニテ差出シタルトキハ發送郵便局消印ニ依リ差出ノ日時ヲ定ムルモノトス

第十四條 砂鑛採取ニ關シ農商務省又ハ鑛山監督署ニ差出シタル書類ハ其下戻ヲ強要スルコトヲ得ス

第十五條 左ニ掲クル願書及請求書ハ之ヲ受理セス

- 一 明治二十七年勅令第百號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用セサル願書又ハ請求書
- 二 採取地實測圖ノ添屬ナキ願書
- 三 土地所有者又ハ關係人ノ承諾書若クハ其承諾ヲ得ル能ハサル旨ノ書面ヲ添ヘサル願書
- 四 添屬圖面中出願區域不分明ナル願書

第十六條 左ノ場合ニ於テハ其出願ヲ無効トス

- 一 本則第四條ニ依リ所轄鑛山監督署長ノ定メタル期限内ニ修正若クハ補充ヲ爲サルトキ
- 二 正當ノ理由ナクシテ本則第五條ノ立會ヲ爲サルトキ
- 三 出願地臨檢ノ際出願區域ヲ明示スル能ハサルトキ
- 四 添屬ノ實測圖實地ト著シク相違スルトキ
- 五 出願人ノ住所不分明ナルトキ

第十七條 本則第五條又ハ第六條ヲ犯シタル砂鑛採取人ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 本則第十條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十九條 本則第十一條ヲ犯シタル者ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

附則

第二十條 砂鑛採取法施行以前ニ差出シタル砂鑛採取願書ニシテ同法施行ノ日マテニ處分ヲ終ラサル者ハ總テ同法ニ依レル願書ト看做シ處分スヘシ

第二十一條 本則施行以前ニ差出シタル砂鑛採取願書ニシテ本則施行ノ日マテニ處分ヲ終ラサルモノハ總テ本則ニ依レル願書ト看做シ處分スヘシ

第二十二條 本則ハ明治二十七年八月二十日ヨリ施行ス明治二十六年農商務省令第八號砂鑛採取法施行細則ハ同日限り之ヲ廢止ス

(書式略之)

◎官吏恩給法

明治二十三年六月
法律第四十三號

沿革略記 明治十七年一月第一號達ヲ以テ官吏恩給令ヲ定ム○十八年三月第十五號達ヲ以テ官吏恩給令附則ヲ定ム○二十三年六月法律第四十三號ヲ以テ官吏恩

給令ヲ制定ス是レ現行法リ

朕官吏恩給法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官吏恩給法

第一條 文官判任以上ノ者退官シタルトキハ此法律ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條 在官滿十五年以上ノ者左ニ掲クル事項ノ一二當ルトキハ終身恩給ヲ給ス

一 年齢六十歳ヲ超エ退官ヲ許シタルトキ

二 傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職ニ堪ヘス退官ヲ許シタルトキ

三 廢官廢廳若クハ官廳事務ノ伸縮又ハ非職滿期ニ依リ退官シタルトキ

第三條 左ニ掲クル事項ノ一二當ル者ハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身恩給ヲ給シ尙其最下金額十分ノ七マテノ増加恩給ヲ給ス

一 公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘス退官シタルトキ

二 公務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務

ニ從事シ爲メニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘス退官シタルトキ

第四條 滿五年以上國務大臣ノ職ニ在ル者退官シタルトキハ第二條ノ制限ニ拘ハラス恩給ヲ給ス

第五條 恩給ノ年額ハ退官現時ノ俸給ト在官年數トニ依リ之ヲ定ム即チ在官滿十五年以上十六年未滿ニシテ退官シタル者ノ恩給年額ハ俸給年額ノ二百四十分ノ六十トシ十五年以後滿一年毎ニ二百四十分ノ一ヲ加ヘ滿四十年ニ至テ止ム但在官四十年以上ノ者ニ給スヘキ恩給ハ四十年ノ額又十五年未滿ノ者ニ給スヘキ恩給ハ十五年ノ額トス

非職滿期ニ由テ退官シタル者ノ恩給ハ其在職最終ノ俸額ニ依テ之ヲ算定ス

交際官及領事貿易事務官等ノ恩給ハ其官等ニ對スル普通文官ノ俸額ニ依テ

之ヲ算定ス

兼官ニ依テ受クル加俸ハ恩給年額ヲ算定スルニ當リ之ヲ除算スヘシ
恩給年額圓位未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム

第六條 恩給ヲ受ケ又ハ恩給ヲ受ケスシテ退官シタル者在官中ノ公務ニ起因
スル傷痍疾病引續キ重症ニ趨キタルトキ其事由ヲ詳悉シ左ノ期限内ニ申出
レハ查覈ノ上相當ノ恩給ヲ給ス

一 一肢ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ハ退官後二箇年

二 一肢ヲ亡シ或ハ二肢ノ用ヲ失ヒ又ハ兩眼ヲ盲シ若クハ二肢ヲ亡シ若ク
ハ之ニ準スヘキ者ハ退官後三箇年

第七條 在官年數ハ判任官以上初任ノ月ヨリ起算シ退官ノ月ヲ以テ終リトス
明治四年八月以前ヨリ任官セラレタル者ハ同年同月ヨリ起算ス但本項ニ掲
クル者退官スルトキハ明治四年七月以前ノ勤務ニ對シテハ同年同月ノ現官
等ニ相當スル月俸ノ半額ヲ以テ在官年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スル金

額ヲ一時支給ス

第八條 左ニ掲クル月數及日數ハ在官年數中ニ算入スヘシ

一 判任以上出仕官ニ在ルノ月數

二 武官ヨリ文官ニ轉シタル者又ハ軍人恩給ヲ受ケスシテ現役ヲ退キタル
後文官ニ任シタル者ハ其現役中ノ日數

三 從軍年加算ノ年月

四 非職及休職中ノ月數

五 退官ノ後再ヒ任官シタル者ハ前在官ノ月數

六 宮内官ヨリ文官ニ轉シタル者又ハ恩給ヲ受ケスシテ宮内官ヲ退キタル
後文官ニ任シタル者ハ宮内判任官以上在官中ノ月數

第九條 左ニ掲クル月數及日數ハ在官年數中ヨリ除算スヘシ

一 年齢二十歳未滿者ノ在官月數

二 高等官試補及判任官見習中ノ月數

- 三 郡區書記ヲ除クノ外政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官職ニ在ル月數及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ル月數
 - 四 御用掛雇等外出仕勤仕ノ月數
 - 五 第八條第二ニ掲クル者ニ在テハ軍人恩給法ニ依リ除算スヘキ日數
 - 六 自己ノ便宜ニ依リ退官シタル後又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル後再ヒ任官シタル者ニ在テハ其前官ノ月數
- 第十條 文官ニシテ從軍シタル者ハ軍人恩給法ノ算則ニ照シテ其從軍年ヲ加算ス
- 第十一條 恩給ヲ受クル者再ヒ官ニ就キ滿一年以上在官シタル後退官シタルトキハ左ノ區別ニ依リ恩給ヲ給ス
- 一 退官現時ノ俸給前後相同シカラサルトキハ前官年數ヲ後官ノ年數ニ通算シ後官ニ對スル恩給額ト前ノ恩給額トヲ比較シ其多キ方ヲ給ス
 - 二 退官現時ノ俸給前後相同シキトキハ在官年數ニ依リ恩給ヲ増加ス但

- 前官十五年未滿ニシテ恩給ヲ受ケタル者ニ在テハ前後通算シテ十六年以上ニ至ラサレハ増加セス
- 第十二條 恩給ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ恩給ヲ剝奪ス
- 左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其間恩給ヲ停止ス
- 一 判任以上ノ官ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキ但商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ルトキハ此限ニアラス
 - 二 公權ヲ停止セラレタルトキ
- 第十三條 年齢未タ六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退官シタル者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルノ故ヲ以テ退官シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ハス
- 第十四條 政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官吏及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏竝ニ

高等官試補判任官見習ハ恩給ヲ受クルノ權ナキモノトス但郡區書記ハ此限ニアラス

商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏竝ニ高等官試補判任官見習ニシテ公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ此法律第三條ニ該當スル者ニ限り退官又ハ罷免現時ノ俸給四分ノ一ヲ終身支給スルコトヲ得

第十五條 恩給支給ノ期ハ退官ノ翌月ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス

第十六條 恩給ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後二箇年内ニ請求セザレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十七條 恩給ノ支給ハ本屬長官ノ證明ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣總理大臣之ヲ裁定ス行政上ノ處分ニ因リ恩給ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者ハ六箇月以内ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一箇年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但左ノ事件ニ關シテハ恩給局ノ裁決ハ終審確定ノモノトス

一 傷痍疾病ノ原因及其輕重

二 職務ニ堪エルト否ヲサルト

第十八條 恩給ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス

第十九條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ恩給ヲ受ケタル者ハ總テ其恩給令ニ依ルヘシ但其權利消滅及停止ハ此法律ニ依ル

第二十條 此法律施行前ニ退官シタル者ノ恩給ハ明治十七年達官吏恩給令ニ依ルヘシ但此法律施行ノ日ヨリ三箇年内ニ請求セザレハ之ヲ受クヘキ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第二十一條 此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス從前ノ命令ニシテ此法律ニ抵觸スルモノハ總テ廢止ス

○官吏恩給法施行規則 二十三年七月 閣令第三號

官吏恩給法施行規則左ノ通定ム

官吏恩給法施行規則

第一章 恩給ノ請求

第一條 官吏恩給法第二條第三條第六條及第七條第二項第十四條第二項ニ依リ恩給ヲ受クヘキ者ハ恩給請求書ヲ退官當時ノ本屬廳ノ長官ニ差出スヘシ但廢官廢廳ニ當リタルトキハ其事務ノ引繼ヲ受ケタル官廳ノ長官ニ差出スヘシ

第二條 官吏恩給法第四條ニ依リ恩給ヲ受クヘキ者ハ恩給請求書ヲ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

第三條 恩給請求書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

- 一 在官中履歷書
- 二 市町村長ノ證明シタル戸籍調書

但官吏恩給法第十四條第二項ニ掲ケタル者ハ之ヲ添付スルニ及ハス

第四條 公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ恩給ヲ請求スル者ハ前條ニ掲ケル書類ノ外左ノ書類ヲ以テ其事實ヲ證明スヘシ官吏恩給法第六條ニ依リ恩給ヲ請求スル者亦同シ

- 一 現認證書又ハ之ヲ證スル公文ノ寫若クハ口供書
- 二 醫師ノ診斷證書

第五條 恩給ノ請求ヲ受ケタル各廳長官ハ查覈ノ上請求ノ理由アリト認ムルトキハ請求者ノ在官年數及恩給年額計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

各廳長官ニ於テ請求ノ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ具シテ之内閣總理大臣ニ差出スヘシ

第六條 内閣ニ於テ前條ノ請求ヲ許可シタルトキハ恩給證書ヲ作り本屬廳ヲ經テ本人居住地ノ地方廳ヲシテ之ヲ下付セシム但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ユ

恩給證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ大藏省ニ通報スヘシ

第二章 恩給ノ支給

第七條 恩給ハ其年額ヲ四分シ四月七月十月一月ニ於テ其前三箇月分ヲ大藏省ヨリ本人居住地ノ地方廳ヲ經テ支給ス但權利消滅若クハ停止ノトキ及一時支給ノ金額ハ期月ニ拘ハラズ之ヲ支給ス

(二十七年十月閣令第五號ヲ以テ若クハ停止ノ五字ヲ追加ス)

第八條 恩給ヲ受クル者其金額ヲ受領セントスルトキハ恩給證書ヲ以テ其受領權アルコトヲ證明スヘシ

第九條 恩給ヲ受クル者他ノ地方ニ居住ヲ轉スルトキハ恩給支給ノ月ヨリ三十日以前其旨ヲ新舊居住地ノ地方廳ニ届出ヘシ若シ此ノ期日ヲ過キ届出タルトキハ其ノ一期ノ金額ハ尙ホ從前ノ地方廳ニ於テ支給ス

地方廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ各縣間互ニ其ノ者ニ係ル恩給支給ノ受繼ヲ爲シ其ノ引繼ヲ受ケタル地方廳ヨリ大藏省ニ通知スヘシ(二十七年十月閣令第一五號ヲ以テ改正ス)

第十條 官吏恩給法第十二條ニ當リタル者ノ恩給支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日、日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失ヒタル日ヲ以テ支給ヲ終ル

二 判任官以上ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキハ俸給ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以テ支給ヲ終リ其退官シタルトキハ俸給ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

三 公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラルヘキ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日ヲ以テ支給ヲ終リ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

第十一條 官吏恩給法第七條第二項ニ掲クル月俸トハ明治四年六月東京淺草米廩ノ平均相場ニ依リ當時ノ官祿一ヶ月分ニ相當スル金額トス

第十二條 官吏恩給法第三條ニ掲クル最下金額十分ノ七マテノ増加恩給ノ等差ハ左ノ如シ

第一項 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ 十分ノ七

第二項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ六

第三項 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ五

第四項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ四

第五項 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ三

第六項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ二
傷痍疾病ノ等差ハ明治十八年達文官傷痍疾病等差例ニ依ル

第三章 恩給ノ停止

第十三條 恩給ヲ受クル者重罪若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキハ其確定裁判ノ宣告ヲ爲シタル裁判所ヨリ之ヲ大藏省ニ通知スヘシ

第十四條 官吏恩給法第十二條第二項ノ第一ニ當ル者アルトキハ其任用シタル官廳ヨリ大藏省ニ通知スヘシ解任シタルトキモ亦同シ但此通知書ニハ本人恩給ノ支給ヲ受ケタル地方廳名及俸給ノ支給ヲ始ムル日(解任ノトキハ支給ヲ終リタル日)ヲ付記スヘシ

第十五條 恩給ヲ受クル者死去シタルトキハ其遺族ヨリ地方廳ニ届出ヘシ其遺族ニシテ扶助料ヲ受クヘキ權利ナキトキハ死去ノ届出ヲ爲スト同時ニ恩給證書ヲ返納スヘシ

地方廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ大藏省ニ通知シ其恩給證書ハ内閣恩給局ニ送付スヘシ

第十六條 大藏省ニ於テ第十三條第十四條第十五條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ内閣恩給局ニ通知

シ且第十三條第十四條ノ場合ニ於テハ地方廳ニ通知シテ其恩給ノ支給ヲ停止シ又ハ復給セシムハ
シ
地方廳ニ於テ此通知ヲ受ケタルトキ其恩給ヲ剝奪スヘキモノハ恩給證書ヲ收メテ内閣恩給局ニ送
付スヘシ

第四章 雜則

第十七條 水火災盜難等ニ由リ恩給證書ヲ亡失シタル者ハ居住地ノ地方廳ニ届出ヘシ

地方廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其事實ヲ調査シ亡失ノ事由ヲ具シテ内閣恩給局ニ申出
ヘシ此場合ニ於テ恩給局ハ恩給證書ノ謄本ヲ作り地方廳ヲ經テ本人ニ下付スヘシ

前項恩給證書ノ謄本ハ恩給證書ト同一ノ效力アルモノトス

第十八條 恩給ヲ受クル者改氏名シタルトキハ居住地ノ地方廳ニ届出ヘシ 地方廳ハ恩給證書ノ裏面

ニ其事實ヲ記載シ長官署名捺印ノ上本人ニ下付シ其旨ヲ内閣恩給局及大藏省ニ通知スヘシ

第十九條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ恩給ヲ受クル者左ノ場合ニ於テハ本則ニ依ル

- 一 死去又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ
- 二 恩給證書ヲ亡失シタルトキ

三 改氏名又ハ居住地ヲ轉シタルトキ(二十七年十月閣令
第五號ヲ以テ改正)

第二十條 官吏恩給法第二十條ニ依リ恩給ヲ請求スル者ハ本則ニ依ルヘシ

第二十一條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ本規則ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ職務ハ區戸長
ニ於テ之ヲ行フヘシ

○官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則明治二十九年三月
法律第三十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則

第一條 地方稅支辨ノ俸給ヲ受ケタル郡區長ノ在官月數ハ官吏ノ恩給及遺族扶助ニ關スル在官年數
中ニ算入ス

第二條 明治二十三年七月一日以後ニ退官シタル文官判任以上ノ者ニシテ地方稅支辨ノ俸給ヲ受ケ
タル郡區長在官中ノ月數ヲ除算シ恩給ヲ受ケ若ハ之カ爲恩給ヲ受ケサリシ者ニハ其ノ月數ヲ算入
シ恩給ヲ増加シ又ハ新ニ之ヲ給スルコトヲ得

第三條 第二條ニ相當スル者在官中又ハ退官ノ後死去シ其ノ遺族ニシテ扶助料若ハ一時扶助金ヲ受
ケ又ハ之ヲ受ケサリシ者ニハ第一條ニ依リ算定シタル恩給年額若ハ在官年數ニ依リ其ノ扶助料若
ハ一時扶助金ヲ増加シ又ハ新ニ之ヲ給スルコトヲ得

官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則

第四條 第二條、第三條ニ依リ新ニ恩給又ハ扶助料ヲ受クル者ハ左ノ方法ニ依リ最後ニ受ケタル退官賜金又ハ一時扶助金ノ一部ヲ返納セシム

新ニ受クヘキ恩給又ハ扶助料年額ニ其ノ退官又ハ死去以後新ニ恩給又ハ扶助料ヲ受クル日ニ至ルマテノ年數ヲ乘シ月數ハ其ノ月割額ヲ加ヘ退官賜金一時扶助金ヲ其ノ總額ニ對照シ若超過アルトキハ其ノ超過額ヲ新ニ受クヘキ恩給又ハ扶助料中ヨリ控除ス

第五條 恩給ヲ受クル者郡區書記ニ任用セラレタルトキハ其ノ間恩給ヲ停止ス

第六條 第二條、第三條ニ依リ給スル恩給及扶助料ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ起算シテ之ヲ給ス

第七條 第二條、第三條ニ依リ受クヘキ恩給、扶助料又ハ一時扶助金ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年内ニ請求セサレハ其ノ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第八條 此ノ法律ニ於テ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ノ例ニ依ル

第九條 此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

○官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則施行規則明治二十九年三月 閣令第二號

官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則施行規則左ノ通定ム

官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則施行規則

第一條 官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則第二條ニ依リ恩給ノ増加ヲ受ケ若クハ新ニ恩給ヲ受ケントスル者ハ恩給請求書ヲ退官當時ノ本屬廳ノ長官ニ差出スヘシ但廢官廢廳ニ當リタルトキハ其ノ事務ノ引繼ヲ受ケタル官廳ノ長官ニ差出スヘシ

第二條 官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則第三條ニ依リ扶助料又ハ一時扶助金ノ増加ヲ受ケ若クハ新ニ之ヲ受ケントスル者ハ其ノ請求書ヲ居住地ノ地方長官ニ差出スヘシ

第三條 恩給又ハ扶助料若クハ一時扶助金ノ請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 在官中ノ履歷書

二 市町村長ノ證明シタル戶籍寫

但恩給ヲ請求スル者ニ在リテハ其ノ退官當時ノ戶籍寫扶助料若クハ一時扶助金ヲ請求スル者ニ在リテハ元官吏タリシ者死亡當時ノ戶籍寫及明治二十九年四月一日現在ノ戶籍寫トス

三 官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則施行前ニ恩給又ハ扶助料若クハ一時扶助金ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ證書若クハ辭令書

第四條 第一條ニ依リ新ニ恩給ノ請求ヲ受ケタル各廳長官ハ官吏恩給法施行規則第五條ニ掲クル計算書ノ外退官當時給與シタル退官賜金ノ調書ヲ添附スヘシ

第五條 恩給ヲ受ケタル者ヲ郡區書記ニ任用シ若クハ解任シタルトキハ官吏恩給法施行規則第十條

第十四條及第十六條ヲ進用ス但從來任用シタル者ハ直ニ本條ノ手續ヲ爲スヘシ
第六條 本規則ニ於テ特別ノ規程ヲ設ケサルモノハ總テ官吏恩給法施行規則及官吏遺族扶助法施行規則ノ例ニ依ル

◎官吏遺族扶助法 明治二十三年六月 法律第四十四號

沿革略記

明治十七年一月第一號達官吏恩給令ヲ以テ勅奏任官ノ寡婦孤兒ニ限リ扶助料ヲ受ルコトヲ得ルノ制ヲ設ク〇二十三年六月法律第四十四號ヲ以テ更ニ官吏遺族扶助法ヲ制定ス是レ現行法ナリ

朕官吏遺族扶助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官吏遺族扶助法

第一條 文官判任以上ノ者左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ハ此法律ノ規定スル所ニ依リ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有ス但第二條ノ納金ヲナスヘキ義務ナキ者ノ遺族ハ此限ニ在ラス
一 在官十五年以上ノ者在官中死去シタルトキ

二 在官十五年未滿ノ者公務ノ爲メ死去シタルトキ

三 恩給ヲ受ル者死去シタルトキ

第二條 文官判任以上ノ者ハ其俸給百分ノ一ヲ國庫ニ納ムヘシ

第三條 交際官及領事貿易事務官等其俸給普通文官ヨリ多額ナルトキハ普通文官ノ俸給ニ依リ少額ナルトキハ現ニ受クル所ノ俸給ニ依リ第二條ノ納金ヲ爲スヘシ

政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官吏及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏竝ニ高等官試補判任官見習ノ俸給及兼官ニ依テ受クル加俸ニ對シテハ第二條ノ納金ヲ要セス

第四條 寡婦扶助料年額ハ亡夫ノ受ケタル若クハ受クヘキ恩給年額三分ノ一トス

公務ノ爲メ受ケタル傷痍ニ原因シテ死去シ又ハ非常ノ勞動及困苦ヲ忍ビ勤務ニ從事シ爲メニ發病死去シ又ハ公務ニ依リ傳染病者ニ接シ該病毒ニ感染

シテ死去シ又ハ戰地ニ於テ若クハ公務旅行中流行病ニ罹リ死去シタル者ノ寡婦扶助料ハ亡夫ノ俸給ニ對シ官吏恩給法第五條ニ依リ算出シタル恩給年額三分ノ二トス

扶助料年額圓位未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム

第五條 寡婦ナキトキ又ハ扶助料ヲ受クル寡婦死去シ若クハ權利消滅シタルトキハ其扶助料ヲ孤兒ニ給ス

第六條 孤兒扶助料ハ數子アルトキハ家名繼襲者ニ給シ戸主ニ非サル者ノ孤兒ニ在テハ長子ニ給ス其繼襲者及長子死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿ツルトキハ順次年少者ニ轉給スルモノトス但家名繼襲者ヲ除クノ外男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニス

第七條 恩給ヲ受ケタル者ノ寡婦ニシテ其夫退官後結婚シタル者ハ扶助料ヲ受クルコトヲ得ス

第八條 此法律ニ於テ孤兒トハ年齢二十歳未滿ノ男女子ニシテ未ダ結婚セサ

ル者ヲ云フ但養男女子ハ家名繼襲者ニ限ル

第九條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ給ス

第十條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦及孤兒ナク若クハ扶助料ヲ受ケタル寡婦及孤兒戸籍ヲ去リ若クハ死去シ若クハ權利消滅シタルトキ父母又ハ祖父母アルトキハ寡婦ニ相當スル扶助料ノ全額ヲ其父母又ハ祖父母ニ終身給スルコトヲ得

其 助料ハ先ツ父ニ給シ其父存在セサルトキ若クハ權利消滅シタルトキハ母ニ給ス母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ轉給スルハ順次此例ニ依ル

第十一條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戸籍内ニ在ル二十歳未滿又ハ癱疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキトキハ寡婦ニ相當スル扶助料一個年分ヨリ少カラス五個年分ヨリ多カラサル金額ヲ人員ニ拘ハラズ一時限リ其兄弟姉妹ニ給スルコトヲ得

第十二條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ權利ノ生シタル日ヨリ三箇年内ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十三條 扶助料ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス

第十四條 扶助料ヲ受クルノ權利ハ左ノ時ヨリ消滅ス

一 寡婦死去又ハ婚嫁シ若クハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月

二 孤兒死去又ハ婚嫁シ又ハ他家ノ養子女トナリ又ハ年齢二十歳ニ滿テタル月ノ翌月

三 父母祖父母死去シ又ハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月

第十五條 孤兒二十歳ニ滿ツルモ癡疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハス他ニ給養スル者ナキトキハ寡婦扶助料ノ三分ノ一ヲ其孤兒ニ各終身給スルコトヲ得但一戸籍内ニ寡婦ト同額ノ扶助料ヲ受クル者アルトキハ其間之ヲ給セス

第十六條 扶助料ヲ受クル者日本臣民タルノ分限ヲ失ヒ若クハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ扶助料ノ支給ヲ廢ス

公權ヲ停止セラレタルトキハ其間支給ヲ停止ス

扶助料ヲ受クル者公權停止中ハ其轉給ヲ受クヘキ者ニ之ヲ給ス

第十七條 在官十五年未滿ノ者在官中公務ノ故ニアラスシテ死去シタルトキハ其遺族ニ一時扶助金ヲ給ス

前項ノ扶助金ハ在職最終ノ俸給年額百分ノ一ヲ在官年數ニ乗シタル額トス但一年未滿ノ在官月數ハ計算セス

第十八條 扶助料ノ支給ハ地方長官ノ申牒ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣總理大臣之ヲ裁定ス

行政上ノ處分ニ因リ扶助料ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者ハ六個月以内ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十九條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ扶助料ヲ受ケタル者及恩給ヲ受ケタル者ノ遺族扶助料ハ總テ其恩給令ニ依ルヘシ但其權利消滅及停止ハ此法律ニ依ル

第二十條 此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

○官吏遺族扶助法施行規則 明治二十三年七月閣令第四號

官吏遺族扶助法施行規則左ノ通定ム

官吏遺族扶助法施行規則

第一章 扶助料ノ請求

第一條 官吏遺族扶助法第一條第一第二及第十七條ニ當ル者アリタルトキハ本屬廳ヨリ死者ノ履歷書ヲ其遺族ニ下付スヘシ遺族ハ之ヲ以テ扶助料又ハ一時扶助金請求ノ證ト爲スヘシ

第二條 官吏遺族扶助法第一條第三ニ當ル者ノ遺族ハ其恩給證書ヲ以テ扶助料請求ノ證ト爲スヘシ

第三條 官吏遺族扶助法第四條第二項ニ當ル者アリタルトキハ本屬廳ニ於テ事實ヲ查覈シ其傷痍若クハ疾病ノ公務ニ起因シタル證據トナルヘキ書類及醫師ノ診察ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ其診

斷書ヲ併セテ其遺族ニ下付スヘシ遺族ハ之ヲ以テ扶助料請求ノ證ト爲スヘシ

第四條 扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿チタルトキ其扶助料ノ轉給ヲ請フ者ハ前者ノ扶助料證書ヲ以テ請求ノ證ト爲スヘシ

第五條 公權停止ニ因リ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ハ確定裁判ノ宣告書寫ヲ以テ請求ノ證ト爲スヘシ

第六條 官吏遺族扶助法第十一條及第十五條ニ當ル者ハ其事由ヲ詳記シ癡疾不具ニシテ產業ヲ營ムコト能ハサル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ扶助料ヲ請求スヘシ

第七條 扶助料ノ請求書ハ請求者署名シ後見人アレハ其後見人連署スヘシ親族二名親族ナキトキハ居住地ノ戸主二名連署シ市町村長ノ與印ヲ受ケ第一條乃至第六條ニ掲クル書類ノ外市町村長ノ證明シタル戸籍調書ヲ添附シ地方長官ニ差出スヘシ

第八條 扶助料ノ請求ヲ受ケタル地方長官ハ查覈ノ上扶助料年額ノ計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

内閣ニ於テ之ヲ許可シタルトキハ扶助料證書ヲ作り地方廳ヲシテ之ヲ本人ニ下付セシム但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ユ

扶助料證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ大藏省ニ通報スヘシ

官吏遺族扶助法施行規則

第二章 納金ノ徴收

第九條 官吏遺族扶助法第二條ニ掲クル納金ハ俸給支給ノトキ各廳ニ於テ之ヲ徴收シテ國庫ニ納ムヘシ

第三章 扶助料ノ支給及停止

第十條 扶助料ノ支給ハ官吏恩給法施行規則第七條第八條第九條及第十條第一第三ノ例ニ依ル

第十一條 扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿チタルトキハ地方廳ニ於テ扶助料ノ支給ヲ廢シ其旨ヲ大藏省ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ナキトキハ地方廳ニ於テ其扶助料證書ヲ収メテ内閣恩給局ニ送付スヘシ

第十二條 扶助料ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ公權ヲ停止セラレタルトキハ官吏恩給法施行規則第十三條ノ例ニ依ル

第十三條 大藏省ニ於テ第十一條第十二條ノ通知ヲ受ケタルトキハ官吏恩給法施行規則第十六條ノ例ニ依ル

雜則

第十四條 水火災盜難等ニ依リ扶助料證書ヲ亡失シタルトキ及扶助料ヲ受クル者改氏名ヲ爲シタル

トキハ官吏恩給法施行規則第十七條及第十八條ノ例ニ依ル

第十五條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ扶助料ヲ請求スル者ハ本則ニ依ルヘシ同令ニ依リ扶助料ヲ受クル者ハ左ノ場合ニ於テ本則ニ依ル

- 一 死去又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ
- 二 恩給證書ヲ亡失シタルトキ
- 三 改氏名又ハ居住地ヲ轉シタルトキ(二十七年十月閣令第六號ヲ以テ改正ス)

第十六條 市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本規則ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ職務ハ區戸長ニ於テ之ヲ行フヘシ

◎軍人恩給法

明治二十三年六月 法律第四十五號

沿革略記

明治八年四月第四十八號達ヲ以テ陸軍武官傷疾扶助及ヒ死亡者ノ祭葬并其家族扶助概則ヲ定ム○同年八月第四百八號達ヲ以テ海軍退隱令ヲ定ム○九年一月第八號達ヲ以テ前二達中ヲ改正ス○同年十二月第九十九號達ヲ以テ八年第四十八號達ヲ廢シ更ニ陸軍恩給令能役俸并恤金令及將官退職令ヲ定ム○十六年九月第三十七號達ヲ以テ陸軍恩給令ヲ改正ス○同年同月第三十八號達ヲ以テ從前ノ海軍退隱令ヲ廢シ更ニ海軍恩給令ヲ定ム○二十三年六月法律第四十五號ヲ以テ前令ヲ廢シ更ニ軍人恩給法ヲ定ム是レ現行法ナリ

朕軍人恩給法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
軍人恩給法

第一章 總則

第一條 陸海軍軍人ニシテ現役ヲ離レタル者ハ此法律ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條 陸海軍軍人恩給ハ左ノ六種トス

- 一 退職恩給
- 二 免除恩給
- 三 增加恩給
- 四 賑恤金
- 五 扶助金
- 六 扶助料

第三條 退職恩給、免除恩給、增加恩給及寡婦ノ扶助料ハ終身、孤兒ノ扶助料ハ

年齢二十歳ニ至ルマテ賑恤金、扶助金ハ一時限り之ヲ給ス

第二章 退職恩給、免除恩給、增加恩給

第四條 退職恩給ハ准士官以上左ニ掲クル事項ノ一二當ルトキ之ヲ給ス

- 一 現役十一年以上ニシテ定限ノ年齢ニ達シ又ハ定限ノ年齢ニ達セサルモ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘス退職シタルトキ
- 二 戦闘及戰時平時ニ拘ハラヌ公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ退職シタルトキ
- 三 戰地ニ於テ流行病ニ罹リ又ハ戰時平時ニ拘ハラヌ公務ノ爲メ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ願ミルコト能ハスシテ勤務ニ従事シ爲メニ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ退職シタルトキ
- 四 現役十一年以上ニシテ未タ定限ノ年齢ニ達セスト雖休職、停職滿期若クハ諭旨ニ依テ退職シタルトキ

第五條 免除恩給ハ下士以下左ニ掲クル事項ノ一二當ルトキ之ヲ給ス

一 現役十一年以上ニシテ定限ノ年齢ニ達シ又ハ定限ノ年齢ニ達セサルモ
 服役満期トナリ或ハ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘス免官若
 クハ現役ヲ免除シタルトキ

二 第四條第二又ハ第三ニ由リ免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ

第六條 退職恩給、免除恩給年額ハ軍人恩給ヲ受クヘキ事故ノ生シタルトキ
 ノ現官階ト其服役年數トニ從ヒ第一號表若クハ第二號表ニ依テ之ヲ給ス但
 現役四十一年以上ノ者ニ給スヘキ恩給ハ四十年ノ額又十一年未滿ノ者ニ給ス
 ヘキ恩給ハ十一年ノ額トス

第七條 軍人現役十一年以上ニシテ文官ニ任シタル者又ハ文官ヲ兼任スル者
 十五年未滿ニシテ退官退職スルトキハ軍人ノ服役年數ニ對スル恩給ヲ給ス
 其十五年以上ニシテ退官退職スルトキハ文武官ヲ比較シ恩給年額ノ多キ方
 ヲ給ス

第八條 退職恩給、免除恩給ヲ受ケタル後再ヒ現役ニ就キ滿一年以上服役シ

タル者退職又ハ免官若クハ現役ヲ免官シタルトキハ左ノ區別ニ依リ恩給ヲ
 給ス

一 再ヒ現役ヲ離ル、トキノ現官階當初恩給ヲ受ケタルトキノ官階ト同等
 ナラサルトキハ前役年數ニ再役年數ヲ通算シ再役ノ官階ニ對スル恩給
 ト既得ノ恩給トヲ比較シ其多キ方ヲ給ス

二 前後ノ官階同等ナルトキハ再役ノ年數ニ依リ恩給ヲ増加ス但前役十一
 年未滿ニシテ恩給ヲ受ケタル者ニ在テハ前後通算シテ十二年以上ニ至
 ラザレハ増加セス

第九條 増加恩給ハ戦闘及戰時平時ニ拘ハラズ公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ若クハ
 疾病ニ罹リ左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ニ退職恩給、免除恩給ノ外特ニ給
 スルモノトス

- 一 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ
- 二 前項ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ

- 三 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ
 - 四 前項ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ
 - 五 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ
 - 六 前項ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ
- 第十條 増加恩給ノ年額ハ軍人之ヲ受クヘキ事故ノ生シタルトキノ現官階ニ從ヒ第三號表ニ依リ之ヲ給ス
- 第十一條 戦闘及戰時平時ニ拘ハラズ公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ恩給ヲ受ケ又ハ之ヲ受ケスシテ現役ヲ離レタル後重症ニ趨キタル者左ノ期限内ニ検査ヲ願出ルトキハ策定ノ上相當ノ恩給ヲ給ス
- 一 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失フニ至リタル者若クハ之ニ準スヘキ者ハ現役ヲ離レタル日ヨリ二個年
 - 二 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒ若クハ兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡スルニ至リタル者若クハ之ニ準スヘキ者ハ現役ヲ離レタル日ヨリ三

個年

- 第十二條 傷痕疾病ニ起因シ恩給ヲ請求スル者ハ左ノ書類ニ依リ證明スヘシ
- 一 傷痕疾病ノ原因ハ現認證書又ハ之ヲ證スル公文ノ寫若クハ口供書
 - 二 傷痕疾病輕重ノ度ハ陸海軍醫官ノ證書若クハ陸海軍醫官ノ查覈ヲ經タル醫師ノ證書
- 第十三條 退職恩給、免除恩給、増加恩給ノ支給ハ現役ヲ離レタル日ノ翌日ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス
- 第三章 賑恤金給助金
- 第十四條 賑恤金ハ下士以下左ニ掲クル事項ノ一二當リ第九條第六ヨリ輕症ニシテ免除恩給ヲ受ケサル者ニ之ヲ給ス
- 一 戦闘及戰地公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ若クハ第四條第三ニ原由スル疾病ニ罹リ現役ヲ離レタルトキ

二 戰時平時公務ノ爲メ傷瀆ヲ受ケ若クハ第四條第二三原由スル疾病ニ罹リ現役ヲ離レタルトキ

第十五條 賑恤金ハ之ヲ受クヘキ事故ノ生シタルトキノ現官階ニ應シ前條第一二當ル者ハ第三號表第五項ノ一個年分ヨリ少カラス十個年分ヨリ多カラズ前條第二ニ當ル者ハ同表第六項ノ一個年分ヨリ少カラス十個年分ヨリ多カラサル金額トス

第十六條 給助金ハ下士以上現役中死歿シ若クハ現役四年以上十一年未滿ニシテ現役ヲ離レ退職恩給、免除恩給ヲ受ケサル者ニ之ヲ給ス其額ハ第四號表ニ依ル

第四章 服役年

第十七條 服役年ノ始期終期ハ左ノ各項ニ依ル

第一 退職恩給、免除恩給ニ係ル服役年ノ始期

一 下士以上ハ初任ノ日陸軍兵卒ヨリ出身ノ下士以上ハ入營ノ日海軍卒

ヨリ出身ノ下士以上ハ五等卒トナリタル日但第二十四條第六ニ當リタル者ハ其兵卒トナリタル日

二 陸軍兵卒ハ入營ノ日海軍卒ハ五等卒トナリタル日但第二十四條第七ニ當リタル者ハ其刑期滿限ノ翌日

三 北海道ニ移住ノ際定規ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒ヨリ出身ノ士官以上ハ其士官ニ任シタル日

四 陸軍軍人及海軍准士官以上ニシテ明治四年八月以前ヨリ勤仕ノ者ハ同月一日

五 海軍下士以下ニシテ明治二年五月一日以前ヨリ勤仕ノ者ハ同月一日

第二 給助金ニ係ル服役年ノ始期

一 下士以上初任ノ日

第三 服役年ノ終期

一 現役ヲ離レタルノ日

第十八條 左ニ掲クル日數ハ服役年ニ通算ス

- 一 前條ニ掲クル服役年ノ始期ヨリ終期ニ至ルマテノ日數
 - 二 豫備後備ニ在ル者戰時若クハ事變ニ際シ召集シタルトキハ其召集中ノ日數
 - 三 海軍軍人轉シテ陸軍軍人トナリタルトキハ海軍服務ノ日數陸軍軍人轉シテ海軍軍人トナリタルトキハ陸軍服務ノ日數
 - 四 文官ヨリ轉シテ陸海軍軍人トナリタル者ニ在テハ恩給ヲ受クヘキ最下限ノ期ニ至ルマテハ文官服務中ノ日數四分ノ三
 - 五 現役ノ者陸軍見習士官、海軍候補生若クハ陸海軍諸生徒トナリ再ヒ現役ニ就キタルトキハ前後ノ日數
 - 六 現役ヲ離レタル後再ヒ現役ニ就キタルトキハ前後ノ日數
 - 七 陸軍見習士官、海軍候補生、陸海軍諸生徒、海軍水雷夫及北海道移住ノ際定規ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒ニシテ從軍シタルトキハ其日數
- 第十九條 左ニ掲クル日數ハ服役年ヨリ除算ス

- 一 刑期中及逃走中ノ日數
- 二 陸軍見習士官、海軍候補生、陸海軍諸生徒中ノ日數但從軍中ノ日數ハ此限ニアラス
- 三 文官奉職中ノ日數ニシテ官吏恩給法ニ依リ除算スヘキ月數
- 四 年齢十七歳未滿ノ日數

第五章 從軍年

第二十條 從軍年ハ現役外ノ年月ト爲シ之ヲ其服役年數ニ加算スルモノトス

- 第二十一條 從軍年ノ加算ハ左ノ各項ニ依ルヘシ
- 一 外國戰ニ當リ出征軍ニ編入セラレ内國港灣ヲ出發シタルトキハ二箇年
 - 二 内國戰ニ當リ出征軍ニ編入セラレ戰地ニ臨ミタルトキハ一箇年
 - 三 臨戰合圍地境内ニ於テ服役シタルトキ外國ニ在テハ二箇年内國ニ在テハ一個年

四 日本國外ノ鎮戍ニ在リタルトキハ一個年
 五 出征事件ニ關シ功績アル者及一時ノ出兵ヲ出征軍ト見做シ從軍年ニ加算スヘキ場合ハ勅裁ニ依ル

第二十二條 海軍軍人ノ外國航海ハ從軍年ニ準シ内國港灣出發ノ日ヨリ一航海ヲ半個年ニ加算ス其航海十二個月ニ超エルトキハ更ニ半個年ヲ加算ス但第二十一條ニ當ルトキハ本條ヲ適用セス

第二十三條 從軍年ノ加算ハ十二個月間數回ノ戰役ニ從ヒ若クハ航海ヲ爲スト雖モ重複シテ之ヲ算セス但其一年以上ニ亘リ十二個月ニ餘ル所ノ分數ハ更ニ一役若クハ一航海ト爲ス

第六章 恩給ヲ受クヘキ資格及權利ノ消滅停止

第二十四條 軍人左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ退職恩給、免除恩給、增加恩給、賑恤金、給助金ヲ受クヘキ資格消滅ス
 一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ

三 將校及相當官准士官ニ於テハ陸海軍刑法剝官ヲ附加スル禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ普通刑法其他ノ罰則ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレ官職ヲ失ヒタルトキ

四 將校及相當官ニ於テハ陸海軍將校分限令第二條第一項第六項ニ依リ免官トナリタルトキ

五 准士官以下願ニ依リ免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ
 六 陸海軍下士陸軍上等兵看護手樂手補ニ於テハ陸海軍刑法普通刑法其他ノ罰則ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレ官職ヲ失ヒ若クハ陸軍懲罰令若クハ憲兵條例第三十五條ニ依リ官職ヲ免セラレタルトキ

七 諸卒ニ於テハ普通刑法其他ノ罰則ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ陸海軍刑法ニ依リ將校ニ對シテ剝官ヲ附加スヘキ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ

第二十五條 退職恩給、免除恩給、增加恩給ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若

クハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ恩給ヲ剝奪ス
左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其間之ヲ停止ス

一 再ヒ現役ニ就キ若クハ文官判任以上ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキ
但商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ルトキハ此限ニアラス

二 公權ヲ停止セラレタルトキ

増加恩給ハ公權ヲ停止セラレタル場合ニアラサレハ停止セサルモノトス

第二十六條 恩給ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇年内ニ請求セサレハ
其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第七章 扶助料

第二十七條 軍人左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其寡婦ハ扶助料ヲ受クル
ノ權利アルモノトス

一 第四條第二第三ニ當リ死歿シタルトキ

二 第四條第一第四第五條第一ニ當リ恩給ヲ受ケ又ハ之ヲ受クヘキ權利ヲ

有シテ死歿シタルトキ

第二十八條 寡婦扶助料ノ年額ハ當該軍人ノ官階ト死歿ノ因由トニ依リ前條
第一ニ當ルトキハ第五號表ニ依リ第二ニ當ルトキハ第六號表ニ依テ之ヲ給

ス

第二十九條 扶助料ヲ受クル者左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其權利消滅

ス

一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ

三 扶助料ヲ受クヘキ權利ノ生シタル日ヨリ三箇年内ニ請求セサルトキ

四 死歿若クハ戸籍ヲ去リ若クハ婚嫁シタルトキ

第三十條 扶助料ヲ受クル者公權ヲ停止セラレタルトキハ其間扶助料ヲ停止
ス

第三十一條 寡婦ナキトキ又ハ扶助料ヲ受クル寡婦死歿シ若クハ權利消滅シ

タルトキハ其扶助料ヲ孤兒ニ給ス

扶助料ヲ受クル者公權停止中ハ其轉給ヲ受クヘキ者ニ之ヲ給ス

第三十二條 孤兒扶助料ハ數子アルトキハ家名繼襲者ニ給シ非戸主軍人ノ孤兒ニ在テハ長子ニ給ス其繼襲者及長子死歿シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿ツルトキハ順次年少者ニ及フモノトス但家名繼襲者ヲ除クノ外男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニス

第三十三條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦及孤兒ナク若クハ扶助料ヲ受ケタル寡婦及孤兒戸籍ヲ去リ若クハ死歿シ若クハ權利消滅シタルトキ父母又ハ祖父母アルトキハ寡婦ニ相當スル扶助料ノ全額ヲ其父母又ハ祖父母ニ終身給スルコトヲ得

其扶助料ハ先ツ其父ニ給シ其父存在セサルトキ若クハ權利消滅シタルトキハ母ニ給ス母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ轉給スルハ順次此例ニ依ル

第三十四條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死歿シタル

軍人ノ戸籍内ニアル二十歳未滿又ハ癱疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキトキハ寡婦ニ相當スル扶助料一箇年分ヨリ少カラス五箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ人員ニ拘ハラズ一時限り其兄弟姉妹ニ給スルコトヲ得

第三十五條 第二十七條乃至第三十四條ヲ適用スヘキ軍人ノ寡婦父母祖父母及兄弟姉妹ハ其軍人現役中陸海軍兵籍簿ニ登記シタル者ニ限ル

第三十六條 此法律ニ於テ孤兒トハ年齢二十歳未滿ノ男女子ニシテ未タ結婚セサル者ヲ云フ但養男女子ハ家名繼襲者ニ限ル

第三十七條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ給ス

雜則

第三十八條 陸軍軍人及海軍准士官以上ニシテ明治四年八月以前ヨリ勤仕ノ者退職若クハ免官スルトキハ同年七月以前ノ勤仕ニ對シテハ同年同月ノ現官等ニ相當スル月俸ノ半額ヲ以テ奉職年數ノ一個年ニ當テ其年數ニ應スル

金額ヲ一時支給ス

海軍下士以下ニシテ明治二年五月以前ヨリ勤仕ノ者ハ同年四月以前ノ勤仕ニ對シテハ同年同月ノ現官等ニ相當スル月俸ノ半額ヲ以テ奉職年數ノ一個年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス

第三十九條 豫備後備ニ在ル者平時召集中職務ノ爲メ死歿シ又ハ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘサルトキハ此法律ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

屯田兵下士卒ニシテ定規ノ救助ヲ受クル者平時軍隊勤務ノ爲メ死歿シ又ハ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘサルトキ亦同シ

第四十條 陸軍見習士官、海軍候補生、陸海軍諸生徒定規ノ救助ヲ受クル屯田兵下士卒及海軍水雷夫ハ第四條第二第三ニ因リ死歿シ又ハ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘサル者ニ限リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第四十一條 恩給ノ支給ハ陸海軍大臣ノ證明ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣

總理大臣之ヲ裁定ス

行政上ノ處分ニ由リ恩給ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者ハ六個月以内ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一個年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但左ノ事件ニ關シテハ恩給局ノ裁決終審確定ノモノトス

一 傷痍疾病ノ原因及其輕重

二 職務ニ堪ユルト否ヲサルト

第四十二條 恩給ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス

第四十三條 明治八年達海軍退隱令明治九年達陸軍武官恩給令明治十六年達陸軍恩給令海軍恩給令ニ依リ恩給又ハ退隱料及扶助料ヲ受クル者ハ總テ該令ニ依ルヘシ但明治九年達陸軍武官恩給令ニ依リ受ケタル傷痍恩給ヲ除クノ外其權利消滅及停止ハ此法律ニ依ル

明治七年佐賀及臺灣ノ役明治九年熊本及山口ノ役明治十年鹿兒島ノ役ニ從軍シタル者並ニ明治十五年同十七年朝鮮國京城變亂ノ際該國ニ駐在若クハ派遣シタル者ノ從軍年計算ハ總テ從前ノ命令ニ依ル

第四十四條 此法律施行前ニ現役ヲ離レタル者ノ恩給ハ明治十六年達陸軍恩給令海軍恩給令ニ依ルヘシ但此法律施行ノ月ヨリ三箇年內ニ請求セザレハヲ受クヘキ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第四十五條 此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

第一號 退職恩給表

年	將官及相當官		佐尉官及相當官		准士官	
	親任官	勅任官	一等	二等	三等	判任官
十一年	千五百圓	千二百圓	千五百圓	千二百圓	千二百圓	千二百圓
十二年	千五百圓	千二百圓	千五百圓	千二百圓	千二百圓	千二百圓
十三年	千五百圓	千二百圓	千五百圓	千二百圓	千二百圓	千二百圓
十四年	千五百圓	千二百圓	千五百圓	千二百圓	千二百圓	千二百圓

十五年	千六百圓	千二百圓	千六百圓	千二百圓	千二百圓	千二百圓
十六年	千六百圓	千二百圓	千六百圓	千二百圓	千二百圓	千二百圓
十七年	千六百圓	千二百圓	千六百圓	千二百圓	千二百圓	千二百圓
十八年	千六百圓	千二百圓	千六百圓	千二百圓	千二百圓	千二百圓
十九年	千六百圓	千二百圓	千六百圓	千二百圓	千二百圓	千二百圓
二十年	千六百圓	千二百圓	千六百圓	千二百圓	千二百圓	千二百圓
二十一年	千六百圓	千二百圓	千六百圓	千二百圓	千二百圓	千二百圓
二十二年	千六百圓	千二百圓	千六百圓	千二百圓	千二百圓	千二百圓
二十三年	千六百圓	千二百圓	千六百圓	千二百圓	千二百圓	千二百圓
二十四年	千六百圓	千二百圓	千六百圓	千二百圓	千二百圓	千二百圓
二十五年	千六百圓	千二百圓	千六百圓	千二百圓	千二百圓	千二百圓
二十六年	千六百圓	千二百圓	千六百圓	千二百圓	千二百圓	千二百圓
二十七年	千六百圓	千二百圓	千六百圓	千二百圓	千二百圓	千二百圓
二十八年	千六百圓	千二百圓	千六百圓	千二百圓	千二百圓	千二百圓
二十九年	千六百圓	千二百圓	千六百圓	千二百圓	千二百圓	千二百圓
三十年	千六百圓	千二百圓	千六百圓	千二百圓	千二百圓	千二百圓
三十一年	千六百圓	千二百圓	千六百圓	千二百圓	千二百圓	千二百圓
三十二年	千六百圓	千二百圓	千六百圓	千二百圓	千二百圓	千二百圓

軍人恩給法

三十三年	二千五百	千六百	千四百	千三百	千二百	千一百	百八十	百七十	百六十	百五十	百四十	百三十	百二十	百一十	百
三十四年	二千七十	千六百六	千四百五	千三百八	千二百九	千一百九	百八十	百七十	百六十	百五十	百四十	百三十	百二十	百一十	百
三十五年	二千百	千六百八	千四百七	千三百九	千二百九	千一百九	百八十	百七十	百六十	百五十	百四十	百三十	百二十	百一十	百
三十六年	二千百二	千七百	千四百八	千三百九	千二百九	千一百九	百八十	百七十	百六十	百五十	百四十	百三十	百二十	百一十	百
三十七年	二千百五	千七百二	千五百五	千七百五	千六百六	千五百五	千四百六	千三百七	千二百八	千一百九	百八十	百七十	百六十	百五十	百四十
三十八年	二千百七	千七百四	千五百七	千七百七	千六百八	千五百七	千四百八	千三百九	千二百九	千一百九	百八十	百七十	百六十	百五十	百四十
三十九年	二千二百	千七百六	千五百九	千八百	千六百九	千五百八	千四百九	千三百九	千二百九	千一百九	百八十	百七十	百六十	百五十	百四十
四十年	二千二百五	千七百八	千五百九	千八百一	千六百九	千五百八	千四百九	千三百九	千二百九	千一百九	百八十	百七十	百六十	百五十	百四十

六百四十四

第二號 免除恩給表

年	官	下		士	卒											
		數	等													
十一	年	六	十	四	五	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	
十二	年	六	十二	四	五	六	五	十	四	四	四	四	四	四	四	四
十三	年	六	十四	五	十八	四	五	十二	四	四	四	四	四	四	四	四
十四	年	六	十六	六	十	四	五	十四	四	四	四	四	四	四	四	四
十五	年	六	十九	六	十二	四	五	十六	四	四	四	四	四	四	四	四

軍人恩給法

十六	年	七	十二	四	六	十五	四	五	十八	四	五	十三	四	四	四	三	十八	四	三	十三	四	
十七	年	七	十五	四	六	十八	四	六	十	四	五	十五	四	五	十	四	四	十五	四	四	四	四
十八	年	七	十七	四	七	十	四	六	十二	四	五	十六	四	五	十一	四	四	十六	四	四	四	四
十九	年	七	十九	四	七	十二	四	六	十四	四	五	十八	四	五	十二	四	四	十七	四	四	四	四
二十	年	八	十一	四	七	十四	四	六	十六	四	六	十	四	五	十四	四	四	十八	四	四	四	四
二十一	年	八	十四	四	七	十六	四	六	十八	四	六	十二	四	五	十六	四	五	二十	四	四	四	四
二十二	年	八	十七	四	七	十八	四	七	十	四	六	十四	四	五	十八	四	五	二十二	四	四	四	四
二十三	年	九	十	四	八	十一	四	七	十二	四	六	十六	四	六	十	四	五	二十四	四	四	四	四
二十四	年	九	十二	四	八	十三	四	七	十四	四	六	十七	四	六	十一	四	五	二十五	四	四	四	四
二十五	年	九	十四	四	八	十五	四	七	十六	四	六	十九	四	六	十二	四	五	二十六	四	四	四	四
二十六	年	九	十六	四	八	十七	四	七	十八	四	七	二十一	四	六	十四	四	五	二十七	四	四	四	四
二十七	年	九	十九	四	八	十九	四	八	十	四	七	二十三	四	六	十六	四	五	二十八	四	四	四	四
二十八	年	九	二十二	四	八	十二	四	八	十二	四	七	二十五	四	六	十八	四	六	二十九	四	四	四	四
二十九	年	九	二十五	四	八	十五	四	八	十四	四	七	二十七	四	七	二十	四	六	三十	四	四	四	四
三十	年	九	二十七	四	八	十七	四	八	十六	四	七	二十九	四	七	二十二	四	六	三十一	四	四	四	四
三十一	年	九	二十九	四	八	十九	四	八	十八	四	八	三十一	四	七	二十四	四	六	三十二	四	四	四	四
三十二	年	九	三十一	四	八	二十一	四	八	二十	四	八	三十三	四	七	二十六	四	六	三十三	四	四	四	四
三十三	年	九	三十四	四	八	二十四	四	九	二十二	四	八	三十六	四	七	二十八	四	六	三十四	四	四	四	四

六百四十五

三十四年	百十七圓百五十四圓八十六圓七十八圓七十圓六十二圓五十四圓
三十五年	百二十圓百八十四圓九十六圓八十八圓八十圓七十二圓六十四圓五十六圓
三十六年	百二十二圓百九十八圓九十八圓八十一圓七十三圓六十五圓五十七圓
三十七年	百二十四圓百十二圓百圓九十一圓八十二圓七十四圓六十六圓五十八圓
三十八年	百二十六圓百十四圓百二圓九十三圓八十四圓七十五圓六十七圓五十九圓
三十九年	百二十九圓百十六圓百四圓九十五圓八十六圓七十七圓六十八圓六十圓
四十年	百三十二圓百十九圓百六圓九十七圓八十八圓七十九圓七十圓六十一圓

第三號 負傷增加恩給表

將官及相當官		佐尉官及相當官		准士官		下士官	
親任官	勅任官	親任官	勅任官	親任官	勅任官	親任官	勅任官
一等	二等	一等	二等	一等	二等	一等	二等
千五百八十圓	千七百八十圓	千五百八十圓	千七百八十圓	千五百八十圓	千七百八十圓	千五百八十圓	千七百八十圓
千四百八十圓	千六百八十圓	千四百八十圓	千六百八十圓	千四百八十圓	千六百八十圓	千四百八十圓	千六百八十圓
千三百八十圓	千五百八十圓	千三百八十圓	千五百八十圓	千三百八十圓	千五百八十圓	千三百八十圓	千五百八十圓
千二百八十圓	千四百八十圓	千二百八十圓	千四百八十圓	千二百八十圓	千四百八十圓	千二百八十圓	千四百八十圓
千一百八十圓	千三百八十圓	千一百八十圓	千三百八十圓	千一百八十圓	千三百八十圓	千一百八十圓	千三百八十圓
千八十圓	千二百八十圓	千八十圓	千二百八十圓	千八十圓	千二百八十圓	千八十圓	千二百八十圓
千七十圓	千一百八十圓	千七十圓	千一百八十圓	千七十圓	千一百八十圓	千七十圓	千一百八十圓
千六十圓	千七十圓	千六十圓	千七十圓	千六十圓	千七十圓	千六十圓	千七十圓
千五十圓	千六十圓	千五十圓	千六十圓	千五十圓	千六十圓	千五十圓	千六十圓
千四十圓	千五十圓	千四十圓	千五十圓	千四十圓	千五十圓	千四十圓	千五十圓
千三十圓	千四十圓	千三十圓	千四十圓	千三十圓	千四十圓	千三十圓	千四十圓
千二十圓	千三十圓	千二十圓	千三十圓	千二十圓	千三十圓	千二十圓	千三十圓
千十圓	千二十圓	千十圓	千二十圓	千十圓	千二十圓	千十圓	千二十圓
千圓	千十圓	千圓	千十圓	千圓	千十圓	千圓	千十圓

第四號 給助金表

將官及相當官		佐尉官及相當官		准士官及下士官	
親任官	勅任官	親任官	勅任官	親任官	勅任官
一等	二等	一等	二等	一等	二等
千五百圓	千七百圓	千五百圓	千七百圓	千五百圓	千七百圓
千四百圓	千六百圓	千四百圓	千六百圓	千四百圓	千六百圓
千三百圓	千五百圓	千三百圓	千五百圓	千三百圓	千五百圓
千二百圓	千四百圓	千二百圓	千四百圓	千二百圓	千四百圓
千一百圓	千三百圓	千一百圓	千三百圓	千一百圓	千三百圓
千八十圓	千二百圓	千八十圓	千二百圓	千八十圓	千二百圓
千七十圓	千一百圓	千七十圓	千一百圓	千七十圓	千一百圓
千六十圓	千八十圓	千六十圓	千八十圓	千六十圓	千八十圓
千五十圓	千七十圓	千五十圓	千七十圓	千五十圓	千七十圓
千四十圓	千六十圓	千四十圓	千六十圓	千四十圓	千六十圓
千三十圓	千五十圓	千三十圓	千五十圓	千三十圓	千五十圓
千二十圓	千四十圓	千二十圓	千四十圓	千二十圓	千四十圓
千十圓	千三十圓	千十圓	千三十圓	千十圓	千三十圓
千圓	千十圓	千圓	千十圓	千圓	千十圓

第五號 戰鬪及公務ノ爲メ死歿シタル者ノ寡婦孤兒扶助料

將官及相當官		佐尉官及相當官		准士官及下士官	
親任官	勅任官	親任官	勅任官	親任官	勅任官
一等	二等	一等	二等	一等	二等
千八百圓	千七百圓	千八百圓	千七百圓	千八百圓	千七百圓
千七百圓	千六百圓	千七百圓	千六百圓	千七百圓	千六百圓
千六百圓	千五百圓	千六百圓	千五百圓	千六百圓	千五百圓
千五百圓	千四百圓	千五百圓	千四百圓	千五百圓	千四百圓
千四百圓	千三百圓	千四百圓	千三百圓	千四百圓	千三百圓
千三百圓	千二百圓	千三百圓	千二百圓	千三百圓	千二百圓
千二百圓	千一百圓	千二百圓	千一百圓	千二百圓	千一百圓
千一百圓	千八十圓	千一百圓	千八十圓	千一百圓	千八十圓
千八十圓	千七十圓	千八十圓	千七十圓	千八十圓	千七十圓
千七十圓	千六十圓	千七十圓	千六十圓	千七十圓	千六十圓
千六十圓	千五十圓	千六十圓	千五十圓	千六十圓	千五十圓
千五十圓	千四十圓	千五十圓	千四十圓	千五十圓	千四十圓
千四十圓	千三十圓	千四十圓	千三十圓	千四十圓	千三十圓
千三十圓	千二十圓	千三十圓	千二十圓	千三十圓	千二十圓
千二十圓	千十圓	千二十圓	千十圓	千二十圓	千十圓
千十圓	千圓	千十圓	千圓	千十圓	千圓
千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓

第六號 寡婦孤兒扶助料

將官及相當官		佐尉官及相當官		准士官及下士官	
親任官	勅任官	親任官	勅任官	親任官	勅任官
一等	二等	一等	二等	一等	二等
千四百圓	千三百圓	千四百圓	千三百圓	千四百圓	千三百圓
千三百圓	千二百圓	千三百圓	千二百圓	千三百圓	千二百圓
千二百圓	千一百圓	千二百圓	千一百圓	千二百圓	千一百圓
千一百圓	千八十圓	千一百圓	千八十圓	千一百圓	千八十圓
千八十圓	千七十圓	千八十圓	千七十圓	千八十圓	千七十圓
千七十圓	千六十圓	千七十圓	千六十圓	千七十圓	千六十圓
千六十圓	千五十圓	千六十圓	千五十圓	千六十圓	千五十圓
千五十圓	千四十圓	千五十圓	千四十圓	千五十圓	千四十圓
千四十圓	千三十圓	千四十圓	千三十圓	千四十圓	千三十圓
千三十圓	千二十圓	千三十圓	千二十圓	千三十圓	千二十圓
千二十圓	千十圓	千二十圓	千十圓	千二十圓	千十圓
千十圓	千圓	千十圓	千圓	千十圓	千圓
千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓

軍人恩給法施行規則 第二十三條

軍人恩給法施行規則左ノ通定ム

軍人恩給法施行規則

軍人恩給法施行規則

第一條 軍人恩給法ニ依リ退職恩給免除恩給増加恩給賑恤金給助金ヲ受クヘキ者ハ其請求書ニ履歷書ヲ添ヘ公務ノ爲メ受ケタル傷痕疾病ニ起因シ之ヲ請求スル者ハ軍人恩給法第十二條ニ掲クル書類ヲ添ヘ所管長官ニ差出シ所管長官ヨリ陸軍大臣若クハ海軍大臣ニ差出スヘシ

第二條 軍人恩給法ニ依リ恩給ヲ受クヘキ資格アル軍人死歿シタルトキハ所管長官ヨリ死者ノ履歷書ヲ其遺族ニ下付スヘシ

軍人恩給法第二十七條第一ニ當ル者アリタルトキハ所管長官ヨリ其事實ヲ證明スヘキ書類ヲ其遺族ニ下付スヘシ

第三條 軍人恩給法ニ依リ扶助料ヲ請求スル者ハ其請求書ニ請求者署名シ後見人アレハ其後見人連署スヘシ親族二名、親族ナキトキハ居住地ノ戸主二名連署シ市町村長ノ奥印ヲ受ケ左ニ掲クル書類ノ外市町村長ノ證明シタル戸籍調書ヲ添ヘ地方長官ニ差出スヘシ

一 現役中死歿シタル軍人ノ遺族ハ所管長官ヨリ下渡シタル死者ノ履歷書

二 前項ノ者軍人恩給法第二十七條第一ニ當ルトキハ履歷書ノ外所管長官ヨリ下渡シタル公務ノ爲メ死歿シタル事實ヲ證明スヘキ書類

三 恩給ヲ受ケタル軍人ノ遺族ハ其恩給證書

四 扶助料ヲ受クル者死歿若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ満チタルトキ其轉給ヲ受クヘキ者ハ前者ノ恩給證書

五 扶助料ヲ受クル者公權停止ニ因リ其轉給ヲ受クヘキ者ハ確定裁判ノ宣告書寫

六 軍人恩給法第三十四條ニ當ル癡疾不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル者ハ第一第二若クハ第三若クハ第四ニ掲クル書類ノ外醫師ノ診斷證書

地方長官前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ陸軍大臣若クハ海軍大臣ニ差出スヘシ但明治十年鹿兒島ノ役ニ從軍シ陸軍恩給令ニ依リ恩給ヲ受ケル元警視局員ノ遺族ヨリ本條ノ請求ヲ爲シタルトキハ地方長官ヨリ内務大臣ニ差出スヘシ

第四條 陸海軍大臣又ハ内務大臣前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ審査ノ上請求ノ理由アリト認ムルトキハ恩給計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ其傷痕疾病ニ起因スルモノニ付テハ陸軍省醫務局若クハ海軍中央衛生會議ノ覆覈ヲ經タル書類軍人ノ寡婦父母祖父母及兄弟姉妹ノ扶助料ニ付テハ陸海軍兵籍簿ノ寫ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

陸海軍大臣又ハ内務大臣ニ於テ前項請求ノ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ具シテ之ヲ内閣總理大臣ニ差出ヘシ

第五條 内閣ニ於テ恩給ノ請求ヲ許可シタルトキハ恩給證書ヲ作り陸軍省若クハ海軍省若クハ内務

省ヲ經テ本人居住地ノ地方廳ヲシテ之ヲ下付セシム但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ニ
恩給證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ大藏省ニ通報スヘシ

第六條 軍人恩給法第三十八條ノ月俸ニシテ米給ニ係ルモノハ官吏恩給法施行規則第十一條ノ例ニ
依ル

第七條 扶助料ヲ受クル者死歿若クハ戸籍ヲ去リ若クハ婚嫁シ若クハ支給期限ノ滿チタルトキハ地
方廳ニ於テ其月ノ翌月ヨリ扶助料ノ支給ヲ廢シ其旨ヲ大藏省ニ通知スヘシ大藏省ハ之ヲ内閣恩給
局ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ナキトキハ地方廳ニ於テ其恩給證書ヲ收メテ内閣恩
給局ニ送付スヘシ

第八條 軍人恩給法第九條第十四條第十五條ノ傷疾疾病輕重ノ等差ハ陸海軍大臣之ヲ定ム

第九條 明治八年達陸軍武官傷疾扶助死亡ノ者祭葬家族扶助概則及海軍退隱令明治九年達陸軍武官
恩給令明治十六年達陸軍恩給令海軍恩給令ニ依リ恩給又ハ退隱料扶助料ヲ受クル者左ノ場合ニ於
テハ本則ニ依ル

- 一 死歿又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ
- 二 恩給證書ヲ亡失シタルトキ

三 改氏名又ハ居住地ヲ轉シタルトキ(二十七年閣令第七號ヲ以テ改正)

第十條 明治十六年達陸軍恩給令海軍恩給令ニ依リ恩給又ハ扶助料ヲ請求スル者ハ本則ニ依ルヘシ
第十一條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ本規則ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ職務ハ區戸長ニ
於テ之ヲ行フヘシ

第十二條 本規則ニ於テ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ官吏恩給法施行規則ノ例ニ依ル

◎府縣立師範學校公立中學校長正教員及市町村立小學校正教員ノ退隱料遺
族扶助料ニ關スル權利障害出訴方明治二十五年四月勅令第三十二號

朕府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員並市町村立小學校正教員ノ退
隱料又ハ遺族扶助料ニ關シ權利ヲ障害セラレタリトスル者ノ件ヲ裁可シ茲ニ
之ヲ公布セシム

府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員並市町村立小學校正教員ノ退隱
料又ハ遺族扶助料ニ關シ行政上ノ處分ニ依リ權利ヲ障害セラレタリトスル者
ハ一箇年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但左ノ事件ニ關シテハ文部大

府縣立師範學校公立中學校長正教員及市町村立小學校
正教員ノ退隱料遺族扶助料ニ關スル權利障害出訴方

臣若クハ府縣知事ノ裁定ハ終審確定ノモノトス

- 一 傷痍疾病ノ原因及其輕重
- 二 職務ニ堪ユルト否ヲサル

◎行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件

明治廿三年十月
法律第百六號

朕行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件ヲ裁シ茲ニ之ヲ公布セシム

法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

- 一 海關稅ヲ除ク外租稅及手數料ノ賦課ニ關スル事件
- 二 租稅滯納處分ニ關スル事件
- 三 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件
- 四 水利及土木ニ關スル事件
- 五 土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル事件

本法ハ明治三十一年七月一日國稅徵收法改正施行ノ日ヨリ廢止ス

朕國稅徵收法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

○國稅徵收法 明治二十二年三月
法律第九號

國稅徵收法

第一章 總則

第一條 國稅ハ關稅ヲ除ク外總テ此法律ニ據テ之ヲ徵收ス

第二條 市町村ハ其市町村内ノ地租ヲ徵收シ之ヲ金庫ニ納付スルノ義務アルモノトス

前項ノ事務ニ關スル費用ハ市町村ノ負擔トス

第三條 其他ノ國稅ハ勅令ヲ以テ命スルトキハ前條ノ例ニ依ル

前項ノ場合ニ於テハ徵收額金ノ百分ノ四ヲ其市町村ニ交付スヘシ

第四條 市町村ハ過誤怠慢ニ依リ其徵收シタル稅金ヲ亡失シタルトキハ之ヲ辨償スルノ責任スヘシ

第五條 市町村ハ避クヘカラサル變災ニ罹リ其徵收シタル稅金ヲ亡失シタルトキハ府縣知事ヲ經テ

其責任ノ免除ヲ大藏大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六條 納稅人納期限ヲ過キ國稅ヲ完納セザルトキハ別ニ定ムル所ノ法律ニ據リ之ヲ處分ス

納稅人非常ノ變災ニ罹リ稅金ヲ納ムルコト能ハスト認ムルトキハ大藏大臣ハ其狀況ニ依リ被害當

時ノ未納税金及被害後六箇月内ノ納期ニ係ル税金ニ限リ其納期限後十二箇月ヲ限度トシ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得(二十七年法律第十七號ヲ以テ本項追加)

第七條 國稅納期ノ末日日曜日又ハ大祭日祝日ニ當ルトキハ其翌日ヲ以テ納期ノ末日トス

第二章 徵收

第八條 地租及勅令ニ依リ市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ヲ徵收スルトキハ市町村ニ對シ其他ノ國稅ヲ徵收スルトキハ各納税人ニ對シ府縣知事徵稅令書ヲ發スヘシ(二十二年法律第二十三號ヲ以テ改正)

第九條 市町村長ハ徵稅令書ニ據リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ各納税人ニ發スヘシ

第十條 納期アルモノハ特別ノ規程又ハ事由アルモノヲ除クノ外該納期ノ十五日以前(納期數日ニ涉ルモノハ初日ノ十五日以前)隨時收入ニ係ルモノハ其納期日ヲ定メ徵稅令書若クハ徵稅傳令書ヲ發スヘシ(廿七年法律第十號ヲ以テ改正)

第十一條 第八條前段ノ場合ニ於テハ各納税人ノ税金ヲ市町村收入役ニ拂込ミ其領收證ヲ得テ納稅義務ヲ了ルモノトス(二十七年法律第十七號ヲ以テ本項並ニ次項トモ改正)

第十二條 市町村ハ其徵收シタル税金ヲ金庫ニ拂込ミ其領收證ヲ得テ納稅義務ヲ了ルモノトス

第十三條 市町村長ハ納期限ヲ過キ税金ヲ完納セサル者アルトキハ其滯納ノ稅目金額及滯納人ノ住

所氏名ヲ記載シ納期限後三日以内ニ之ヲ收入官吏ニ報告スヘシ(二十七年法律第十號ヲ以テ改正)

第十四條 納税人他ノ負債ノ爲メ強制執行ヲ受ケ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ既ニ徵稅令書ヲ發シタルモノニ限リ未タ其納期ニ至ラサルモ國稅徵收ノ權利ハ總テノ債權ニ先ツモノトス(二十七年法律第十號ヲ以テ本項並ニ次項トモ改正)

第十五條 前條ノ場合ニ於テ負債ノ抵償物件中徵收ヲ要スル税金ノ納期限ヨリ一箇年前ニ質入書入ト爲シタルモノアルトキハ其賣却代金ヨリ先ツ其負債金額ニ充テタル後税金ヲ徵收スヘシ

第十六條 地方稅備荒儲蓄金市町稅村ヲ滯納シタル爲メ滯納者ノ財産ヲ賣却シタル場合ニ於テ既ニ徵稅令書ヲ發シタルモノアルトキハ國稅ヲ先取スヘシ

第三章 期滿免除

第十七條 徵稅令書若クハ徵稅傳令書ヲ發セス又ハ之ヲ發シタルモ其徵收ヲ爲サシテ納期限ノ翌日ヨリ起算シ滿三年ヲ經過シタルトキハ納税人ハ其義務ヲ免ル、モノトス(二十七年法律第十號ヲ以テ改正)

第十八條 納税人法律命令ヲ犯シ脫稅ヲシタル場合ニ於テ其公訴ノ期滿免除ト爲ルトキハ其脫稅金ノ追徵モ亦同時ニ免ル、モノトス

國稅徵收法

第十九條 國稅期滿免除ノ期限内ニ於テ徵稅令書若クハ徵稅傳令書ヲ發シタルトキハ期限ノ經過ヲ中斷スルモノトス

期滿免除ノ期限ノ經過ヲ中斷シタルトキハ更ニ其翌日ヨリ期限ヲ起算スヘシ但前後ノ日數ヲ通算シ滿五年ヲ過ルコトヲ得ス

第四章 附則

第二十條 市制町村制ノ施行ニ至ラサル地方ニ於テハ此法律ニ據リ市町村ノ爲スヘキ職務ハ區戶長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第二十一條 此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ施行ス但沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ニハ當分ニ之ヲ施行セス

○國稅徵收法施行細則

二十七年六月
大藏省令第十二號

明治二十三年二月 大藏省令第三號國稅徵收法施行細則左ノ通改正ス

國稅徵收法施行細則

第一條 國稅徵收法第八條ニ依リ市町村ニ對シ發スル徵稅令書ハ第一號第二號様式ニ依リ各納稅人ニ對シ發スル徵稅令書ハ第三號様式ニ依ルヘシ

第二條 府縣知事ハ徵稅令書ヲ收入官吏ニ送付シ收入官吏ハ收入簿及徵稅簿ノ各調定濟額欄内ヘ其金額ヲ記入シ徵稅令書ハ直チニ市町村長又ハ各納稅人ニ交付スヘシ

第三條 府縣知事ハ徵稅令書發付ノ後、納期以前ニ於テ其市町村ノ納額ニ異動ヲ生シタルトキハ彙キノ徵稅令書ヲ更正スヘシ

市町村長ハ徵稅傳令書發付ノ後納期以前ニ於テ各納稅人又ハ納額ニ異動ヲ生シタルトキハ彙キノ徵稅傳令書ヲ更正スヘシ

第四條 市町村長ニ於テ税金ヲ金庫ニ納付スルトキハ第四號様式ノ納付書ヲ添付スヘシ

第五條 各納稅人ニ於テ税金ヲ金庫ニ納付スルトキハ徵稅令書ヲ添付スヘシ

第六條 收入官吏ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ收入簿現金出納簿及徵稅簿ニ其金額ヲ記入シ出納官吏現金取扱規則第十五條第十六條ニ依リ金庫ニ拂込ムヘシ

第七條 收入官吏ハ會計規則第二十七條ニ依リ金庫ヨリ税金領收濟ノ通知書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ收入簿及徵稅簿各收入濟額欄内ニ其金額ヲ記入スヘシ

第八條 府縣知事ハ會計規則第二十七條ニ依リ金庫ヨリ收入官吏ノ拂込ニ係ル税金領收濟ノ通知書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ適宜帳簿ヲ設ケテ其金額ヲ記入シ置クヘシ

第九條 徵收法第六條第二項ニ依リ税金ノ徵收猶豫ヲ請ハントスル者ハ被害ノ實況ヲ詳具シ府縣知

事ニ願出ヘシ

前項ノ願出アリタルトキハ府縣知事之ヲ調査シ徵收ノ猶豫ヲ與フヘキモノト認ムルトキハ大藏大臣ニ稟申スヘシ

第十條 分任收入官吏ハ收入簿及徵稅簿ニ依リ明治二十六年大藏省第三十二號第四號書式ニ準シタル收入報告書及本則附屬様式第五號ノ納期別内譯表ヲ調製シ歲入金突合表ヲ添ヘ翌月五日迄ニ其地ヲ差立主任收入官吏ニ送付スヘシ

第十一條 主任收入官吏ハ分任收入官吏ヨリ送付シタル收入報告書ニ依リ收入簿ヘ其金額ヲ記入シ更ニ之ヲ總計シタル收入報告書及納期別内譯表ヲ調製シ歲入金月計對照表ヲ添ヘ府縣知事ヲ經テ翌月十五日迄ニ其地ヲ差立大藏省ヘ送付スヘシ

第十二條 收入官吏ハ第六號第七號様式ノ徵稅簿第八號様式ノ繰越額整理簿ヲ備ヘ調定濟額收入濟額收入未濟額關損額及繰越額等ヲ記載シ之ヲ整理スヘシ

(第一號様式以下略之)

○國稅滯納處分法

明治二十二年十二月 法律第三十二號

沿革畧記

明治五年九月第二百八十五號布告ヲ以テ租稅延納者處分方ヲ定ム○九年一月第四號布告ヲ以テ前令ヲ改正ス○十年十一月第七十九號布告ヲ以テ前令ヲ廢止シ

本法ハ明治三十一年七月一日國稅徵收法改正施行ノ日ヨリ施行ス

租稅未納者處分方ヲ定ム○二十二年法律第三十二號ヲ以テ前令ヲ廢シ更ニ國稅滯納處分法ヲ定ム是レ現行法ナリ

朕國稅滯納處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國稅滯納處分法

第一章 總則

第一條 國稅ノ滯納ニ係ルモノハ關稅ヲ除クノ外總テ此法律ニ依テ處分ス

第二條 國稅ヲ其納期限ヲ過キ完納セサル者アルトキハ收入官吏ヨリ督促令狀ヲ發スヘシ督促令狀ヲ發スルトキハ手数料トシテ一通ニ付金三錢ヲ徵收スヘシ

第三條 滯納者督促令狀ヲ受タル日ヨリ五日以内ニ稅金ヲ完納セサルトキハ其所有財產ヲ差押ヘ賣却シテ之ヲ徵收スヘシ

第四條 滯納者ノ納稅義務ハ滯納處分濟ヲ以テ終ルモノトス

第五條 滯納者財產ノ價格處分費ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込アキトキハ差押ヲ爲スコトヲ得ス此場合ニ於テモ亦前條ニ同シ

第六條 滯納處分費滯納稅金ニ付テハ他ノ債主ニ對シ先取權アルモノトス但滯納シタル稅金ノ納期限ヨリ一箇年前ニ質入書入ト爲シタル財產ニ付テハ此限ニ在ラス

國稅滯納處分法

- 第七條 酒類醬油造石税ニ付滯納處分ヲ爲ストキ其課額既ニ定マリタル税金ハ未タ其納期ニ至ラサルモ滯納税金ト併セテ之ヲ徵收スヘシ
- 第八條 滯納處分費ハ左ニ掲クル費目ニシテ督促令狀手数料ヲ除クノ外實際支辨スルモノヲ云フ
 - 第一 督促令狀手数料
 - 第二 差押調書及賣却調書調製費
 - 第三 滯納者又ハ其債主若クハ負債者ニ對スル通信費
 - 第四 評價人看守人又ハ競賣人ノ給料
 - 第五 差押物件ノ運搬保管又ハ賣却ニ要スル諸費
 - 第六 公告費
 - 第七 訴訟ニ要スル諸費
- 第九條 滯納者ニ於テ賣却決行ノ前日マテニ處分費税金ヲ完納スルトキハ其財産ノ差押ヲ解クヘシ
- 第三者ヨリ滯納者ノ爲メニ前項ノ金額ヲ代納シタルトキ亦同シ
- 第十條 滯納處分執行ニ關シ不服アリテ出訴スル者アルモ其處分ノ執行ヲ停止セス
- 第十一條 收入官吏ノ收入管轄地外ニ於テ滯納處分ヲ爲スコトヲ要スルトキハ收入官吏ヨリ其處分ヲ爲スヘキ地ノ收入官吏ニ之ヲ囑託スルコトヲ得但他ノ地方管内ニ係ルトキハ收入官吏ハ其所屬

長官ヲ經テ囑託ノ手續ヲ爲スモノトス

第二章 差押

- 第十二條 財産差押ヲ爲ストキハ地方長官ヨリ差押命令書ヲ發シ收入官吏ヲシテ之ヲ執行セシムヘシ
- 第十三條 財産差押ヲ爲ストキハ處分費税金ニ充ル金額ヲ用途トシ通貨ヲ先ニシ次ニ左ノ順序ニ從ヒ其物件ノ賣却代價ヲ見積リ逐次差押ヲ爲スヘシ但第一第二第三ノ物件ハ事宜ニ依リ順序ニ拘ハラヌ之ヲ差押フルコトヲ得又物件ノ分割スヘカラサルモノ及分割スレハ價值ヲ減スヘシト認ムルモノハ其全部ヲ差押フルコトヲ得
- 第一 地金銀、公債證書、株券、手形、其他ノ證券
- 第二 農業其他營業上ノ生産物、製造物及賣品
- 第三 第一第二ニ掲ケサル動産及一月以内ニ收穫シ得ヘキ土地ノ生産物
- 第四 債主權
- 第五 不動産
- 第六 質入書入ト爲シタル財産但質屋營業者ニ質入シタル動産ヲ除ク
- 第十四條 キタル物件ノ差押ハ其物件ヨリ生スル利益又ハ生産物ニモ其效力ヲ及ホスモノトス

第十五條 滯納處分著手以前ニ裁判執行ノ爲メニ滯納者ノ財産一部ヲ差押ヘラレタル場合ニ於テハ其殘部ヲ差押フヘシ其賣却代價處分費税金ニ對シ不足ナルヘシト認ムルトキハ該裁判所ニ照會シテ其不足金額ヲ請求スヘシ

第十六條 第十三條第一第二第三ノ物件ニシテ滯納者所有ノ家屋倉庫其他滯納者所用ノ場所ニ現在スルモノハ滯納者ノ所有ニ非サル旨ヲ申告スト雖モ其證據分明ナラサルトキハ之ヲ差押フルコトヲ得

第十七條 前條ノ場合ニ於テ差押物件ノ取戻ヲ請求セントスル者ハ賣却執行ノ五日前マテニ所有主タルノ證據ヲ具ヘテ收入官吏ニ其取戻ヲ請求スヘシ

第十八條 左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第一 滯納者及其同居家族ノ生活上關クヘカラサル衣服、寢具、家具及廚具

第二 滯納者及其同居家族ノ人口ヲ量リ三十日間ノ生活ニ必要ナル食料及薪炭

第三 實印

第四 祭祀ニ必要ナル物品及石碑、墓地

第五 滯納者ノ家ニ必要ナル系譜、日記、書付類

第六 滯納者及其同居家族ノ身分ニ必要ナル制服、祭服、法衣、

第七 勳章其他名譽ノ章票

第八 修學上必要ナル教科書器具

第九 發明ニ係ル未定ノ物品、未タ發行セサル著譯書類

第十 滯納者ノ同居家族ノ財産ニシテ一箇年前ニ官簿ニ記載シタルモノ若クハ一箇年前ニ記名シタル公債證書、株券、手形其他ノ證券

但所得税ニ關シテハ此限ニ在ラス

第十九條 左ニ掲クル物件ハ他ニ處分費税金ヲ償フニ足ルヘキ物件存在スルトキハ滯納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲サ、ルモノトス

第一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並ニ其飼料

第二 職業ニ必要ナル器具及材料

第二十條 收入官吏ハ財産差押ヲ爲スタメ滯納者ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入コトヲ得

滯納者他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ物件ヲ藏匿スト思料スルトキハ收入官吏其場所ニ立入り取調ヲ爲スコトヲ得

收入官吏滯納者又ハ他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルハ日出ヨリ日没マテノ時間ニ限ルヘシ

第二十一條 收入官吏滯納者ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルトキハ滯納者若クハ其同居家族他人ノ

家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルトキハ其所用者若クハ其同居家族ヲシテ立會ハシムヘシ
滯納者又ハ所用者及其同居家族トモ不在ナルトキハ隣佑一名以上又ハ市町村若クハ警察ノ吏員ヲ
シテ立會ハシムヘシ

第二十二條 收入官吏ハ財産差押ヲ爲スニ當リ門戸倉庫房室及匡匣等ノ閉鎖シアルトキハ之ヲ開カ
シメ又ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得

第二十三條 收入官吏財産差押ヲ爲ストキハ差押命令書ヲ携帶シ滯納者若クハ立會人ノ求ニ依リ之
ヲ示スヘシ

第二十四條 財産ヲ差押ヘタルトキハ收入官吏其差押調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印シ其原本ヲ
立會人ニ交付スヘシ

第二十五條 通貨及第十三條第一ノ物件ヲ差押ヘタルトキハ封印シテ其地ノ市町村長ニ預ケ第十三
條第二以下ノ物件ヲ差押ヘタルトキハ其目錄ヲ添テ其地ノ市町村長ニ之ヲ預ケ其預リ證書ヲ取ル
ヘシ

第二十六條 左ノ場合ニ於テハ滯納者又ハ其同居家族ヲシテ差押物件ノ保管ヲ爲サシムルコトヲ得

第一 收入官吏ニ於テ必要ト認ムルトキ

第二 運搬ニ困難ナルトキ又ハ多額ノ運搬費ヲ要スルトキ

此場合ニ於テハ封印又ハ其他ノ方法ニ依リ差押物件タルコトヲ明ニスヘシ又必要ナル場合ニ於テ

ハ看守人ヲ置クヘシ

第二十七條 債主權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ收入官吏ヨリ負債者ニ對シ差押ノ通知ヲ爲スヘシ
負債者前項ノ通知ヲ受ケタル後滯納者ニ對シ其義務ヲ履行シタルトキハ其履行ノ効ナキモノトス

第二十八條 不動産及船舶ヲ差押ヘタルトキハ收入官吏ハ所轄登記所ニ照會シテ差押ノ記入ヲ受ク
ヘシ

第二十九條 質入書入ト爲シタル財産ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ收入官吏ハ差押物件處分費稅金額
及賣却決行ノ期日ヲ其債主ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ當リ其債主ニ於テ處分費稅金ヲ完納シタルトキハ其差押ヲ解クヘシ

第三章 賣却

第三十條 財産差押手續ヲ終リタルトキハ收入官吏ハ其翌日ヨリ三日以後五日以内ニ賣却公告ノ手
續ヲ爲スヘシ

賣却ノ公告ハ左ノ場所ニ揭示シテ三日以上之ヲ爲スヘシ

第一 課稅地ノ市役所及區役所若クハ町村役場ノ揭示場

第二 物件所在ノ場所

賣却物件ノ價多額ナルカ又ハ滯納者ノ請求アルカ又ハ收入官吏必要ト認ムル場合ニ於テハ前項ニ

掲クル場所ノ外近傍人民群集地ニ揭示シ又ハ其地方ノ新聞紙ニ其要件ヲ公告スルコトアルヘシ

第三十一條 差押物件ハ入札若クハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ公賣スルモノトス但法律規則ニ依リ取扱ニ制限アル物件ハ此限ニ在ラス

前項但書ノ物件及豫定總價格一圓未満ノ差押物件ハ公賣ニ付セス評價ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第三十二條 差押物件ヲ賣却セントスルトキハ收入官吏ニ於テ其物件ノ價格ヲ豫定シ之ヲ封書トシ入札若クハ競賣ノ場所ニ置クヘシ

第三十三條 賣却ハ差押物件所在ノ市町村内ニ於テ之ヲ爲スヘシ但收入官吏一於テ必要ナリト認ムルトキハ他ノ地ニ於テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第三十四條 滯納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏雇員ハ直接ト間接トヲ問ハス其賣却物件ヲ買受ルコトヲ得ス

第三十五條 第十三條第一第二第三ノ物件ハ公告ノ日ヨリ十日以外第四第五第六ノ物件ハ二十日以外ニ於テ賣却ヲ爲スヘシ

第三十六條 差押物件損敗シ易キモノ又ハ多額ノ保存費ヲ要スルモノ又ハ其價額ヲ著シク減少スルノ恐アルモノナルトキハ前條ノ日限ニ拘ハラヌ之ヲ賣却スルコトヲ得

第三十七條 收獲前ニ差押ヘタル生産物ハ其成熟ノ後之ヲ賣却スヘシ

第三十八條 債主權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ負債者其義務ヲ認メタル後之ヲ賣却スヘシ若シ負債者其義務ヲ認メサルトキハ收入官吏ハ其差押ヲ解キ更ニ他ノ物件ヲ差押フルコトヲ得

負債者其義務ヲ認メサル場合ニ於テ他ニ差押フヘキ物件ナキトキハ收入官吏ハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十九條 不動産及船舶ノ公賣ハ入札ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十條 賣却ヲ爲スニ當リ買受望人ナキカ又ハ其買受價額カ豫定價格ニ達セサルトキハ收入官吏ハ其豫定價格ノ幾分ヲ減シテ更ニ豫定價格ヲ定メ再公賣ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ尙ホ買受望人ナキカ又ハ其買受價額尙ホ豫定價格ニ達セサルトキハ其豫定價格ヲ以テ其物件ヲ政府ニ買上ケ其代金ヲ處分費稅金ニ充ツヘシ

第十三條但書ニ依リ差押ヘタル全部ノ物件ヲ政府ニ買上ケタル場合ニ於テ其代金ヲ處分費稅金ニ充テ尙ホ殘餘アルトキハ第四十三條ニ依リテ處分スヘシ

第四十一條 賣却ヲ終リタルトキハ收入官吏ハ賣却調書ヲ製シ買受人ト共ニ署名捺印シテ其謄本ヲ滯納者ニ交付スヘシ質入書入ノ物件ヲ賣却シタル場合ニ於テハ其債主ニモ其謄本ヲ交付スヘシ買受人賣却調書ニ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ記載スヘシ

債主權ヲ賣却シタル場合ニ於テハ負債者ニ買受人ノ住所氏名ヲ通知スヘシ

第四十二條 賣却シタル物件登記ヲ要スルモノナルトキハ收入官吏ハ落札達書及代金完納ノ證書ヲ買受人ニ交付スヘシ

第四十三條 差押物件ノ賣却代金及差押ヘタル通貨ハ處分費税金ニ充テ尙ホ殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ

賣却シタル物件質入書入ト爲シタルモノナルトキハ其代金ヨリ先ツ處分費税金ヲ控除シ次ニ其負債金額ニ充ルマテヲ債主ニ交付シ尙ホ殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ若シ滯納税金ノ納期限ヨリ一箇年前ニ質入書入ト爲シタルモノナルトキハ其代金ヨリ先ツ其負債金額ニ充ルマテヲ債主ニ交付シ次ニ處分費税金ヲ控除シ尙ホ殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ滯納者ニ對シ裁判ノ執行アルトキハ其殘餘金ハ該裁判所ニ送付スヘシ

第四十四條 債主ニ交付スヘキ金額ハ賣却調書ノ謄本及計算書ヲ滯納者ニ交付シタル後五日ヲ經テ之ヲ交付スヘシ若シ五日以内ニ滯納者ヨリ異議ヲ申立ルトキハ其事由ヲ債主ニ通知シ雙方連署ノ書面又ハ確定裁判ノ言渡書ヲ以テ其金額受取方ヲ申出タルトキ之ヲ交付スヘシ

第四章 送達

第四十五條 滯納處分ニ關シ滯納者又ハ其債主若クハ負債者ニ對シ書類ヲ送達スルニハ使丁ヲシテ

之ヲ送達セシムヘシ但送達ヲ受クヘキ者遠隔ノ地ニ在ル場合ニ於テハ書留郵便ヲ以テ送達スルコトヲ得

第四十六條 使丁ハ送達書類ヲ本人ニ渡スヘシ本人不在ナルトキハ同居人ニ渡スヘシ

使丁ハ送達書類ヲ受取リタル者ヨリ領收書ヲ取リテ收入官吏ニ差出スヘシ若シ受取人領收書ヲ記スルコト能ハサルトキハ使丁代テ之ヲ記シ其旨ヲ附記シテ捺印セシムヘシ

第四十七條 送達ヲ爲スニ當リ本人不在ニシテ且本人ニ代リテ受取ルヘキ者アラサルトキハ送達書類ヲ其地ノ市町村長ニ渡シ市町村長ハ其書類ヲ受取人ニ渡シ其領收書ヲ取リテ收入官吏ニ差出スヘシ

第四十八條 市町村長ニ於テ相當ノ處置ヲ爲スモ書類ヲ受取人ニ渡スコト能ハサルトキハ公示スヘシ

公示ハ送達スヘキ書類ノ要旨ヲ摘記シテ之ヲ其本人所在地ノ市役所若クハ區役所若クハ町村役場ノ揭示場ニ三日間揭示スルモノトス

前項ノ揭示ヲ爲シタル日ヨリ五日ヲ經過スルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做スヘシ

第四十九條 郵便ヲ以テ書類ヲ送達スルニ當リ受取人ノ住居不分明ニシテ配達スルコト能ハサルトキハ收入官吏ハ其書類ヲ市町村長ニ送致シ市町村長ハ前二條ニ依リ處分スヘシ

第五章 罰則

第五十條 正當ノ理由ナクシテ第二十一條第一項ノ立會ニ應セサル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十一條 滯納處分ニ對シ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ契約ヲ爲シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

差押物件ノ保管者其保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費消若クハ故意ニ毀損シタル者モ亦同シ
情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ補助シ又ハ虚偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス

附則

第五十二條 市町村制ヲ施行セサル土地ニ在テハ市町村長ノ職務ハ區戸長之ヲ行フヘシ

第五十三條 此法律ハ明治二十三年一月一日ヨリ施行ス但沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七嶋ハ之ヲ施行セス

第五十四條 明治十年第七十九號布告及現行法令中此法律ニ抵觸スル條項ハ總テ廢止ス

○國稅滯納處分法施行細則

明治二十三年一月
大藏省令第一號

國稅滯納處分法施行細則左ノ通定ム

國稅滯納處分法施行細則

第一條 處分法第二條ノ督促令狀同第十二條ノ差押命令書ハ第一號様式第二號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 處分法第十八條第一第二ニ掲クル衣服、寢具、家具、廚具、食料及薪炭ノ數量ハ普通法ノ例ニ依ルヘシ但其例ナキモノハ人口ヲ量リ生活上必要ト認ムル數量ヲ殘シ置クヘシ

第三條 財産差押ノ調書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

- 一 滯納者ノ住所氏名
 - 二 不動産ハ其名稱、種類、數量
 - 三 不動産ハ其位置、番號、名稱、種類、段別又ハ坪數及土地臺帳ニ記スル地價、地租
 - 四 船舶ハ其種類、積量、定艀場及所在ノ場所
 - 五 登記簿ニ登記アル質入書入ノ金額、利子及其返濟期限、登記ノ年月日、債主ノ住所氏名又ハ質入書入ノ登記アラサルコト
 - 六 貸與シタル不動産ニ付テハ借主ノ住所氏名、其契約ノ要項、返戻期限アレハ其期限及賃金
 - 七 差押ノ事由及手續
- 第四條 權主權差押ノ通知書ニハ左ノ諸件ヲ記載シ收入官吏署名捺印スヘシ

- 一 差押ヘタル債主權ノ種類、員額
 - 二 差押ノ事由
 - 三 滯納者ニ對シ義務ノ履行ヲ爲スモ無效タルヘキ旨
 - 四 此通知書ノ送達ヲ受タル日ヨリ五日以内ニ其義務ヲ認ムルカ又ハ認サル旨ヲ申出ツヘキ旨
- 第五條 財産賣却ノ公告文ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

- 一 滯納者ノ住所氏名
- 二 動産ハ其名稱、種類、數量
- 三 不動産ハ其位置、番號、名稱、種類、段別又ハ坪數及土地臺帳ニ記スル地價、地租
- 四 船舶ハ其種類、積量、定繫場及所在ノ場所
- 五 競賣者クハ入札ノ場所、日限
- 六 開札ノ場所日時
- 七 保證金ヲ徵スルトキハ其金額
- 八 代金納付ノ期限
- 九 條件附ノ不動産ナレハ其條件
- 十 其他隨時主任官吏ニ於テ定メタル公賣手續上ノ要件

第六條 競賣ヲ以テ賣却ヲ爲ストキハ收入官吏競賣人ヲ命シテ之ヲ取扱ハシメ自カラ之ヲ監督スヘシ

入札ヲ以テ賣却ヲ爲ストキハ收入官吏自カラ之ヲ取扱フヘシ

第七條 賣却物件ノ買受人代金納付ノ期限内ニ代金ヲ完納セサルトキハ其物件ヲ交付セス更ニ賣却ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ保證金アルモノハ之ヲ還付セス其金額ハ處分費税金ニ補充スヘシ

第八條 財産賣却調書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

- 一 動産ハ其名稱、種類、數量
- 二 不動産ハ其位置、番號、名稱、種類、段別坪數及土地臺帳ニ記スル地價、地租
- 三 船舶ハ其種類、積量、定繫場及所在ノ場所
- 四 公告及賣却ヲ爲シタル方法
- 五 競賣ヲ爲シ又ハ入札ヲ開キタル場所、日時
- 六 三番札マテノ入札代價並其入札人ノ住所氏名
- 七 再公賣ヲ爲シタルトキハ其事由
- 八 保證金ヲ徵シタルコト及其金額
- 九 落札代價及落札人ノ住所氏名

十 代金納付ノ日限

第九條 處分法第四十條ニ依リ賣却物件ヲ政府ニ買上ルトキハ收入官吏該代金ヲ地方長官ニ請求シ之ヲ支辨シ該物件ハ主管ノ官吏ニ引渡スヘシ

第十條 滯納處分濟ノ上國庫ノ損失ニ歸シタルトキハ處分濟ノ日ヨリ十日以内ニ收入官吏ヨリ事由ヲ具シ其闕損額ヲ地方長官ニ稟申スヘシ

第十一條 處分法第十一條ニ依リ滯納處分ノ囑託ヲ受ケタル收入官吏ハ其處分ニ由リテ徵收シタル金額ノ内處分費ヲ控除シ其殘金及諸書類ヲ囑託收入官吏ニ送付スヘシ若シ滯納者又ハ債主ニ交付スヘキ金額アリテ其者受託收入官吏ノ管轄地内ニ住スルトキハ受託收入官吏ニ於テ其金額交付ノ手續ヲナスヘシ

第十二條 處分法第四十三條ニ依リ殘餘金ヲ滯納者ニ還付シ又ハ負債金額ヲ債主ニ交付スルトキハ左ノ諸件ヲ記載シタル計算書ヲ添付スヘシ

- 一 物件賣却代金
- 二 保證金ヲ還付セサルトキハ其金額
- 三 處分費各費目ノ金額及税金
- 四 債主ニ交付スヘキ金額及債主ノ氏名

五 滯納者ニ還付スヘキ金額

第十三條 處分法第四十五條ニ依リ使丁ヲ以テ書類ヲ送達スルトキハ第三號様式ノ送達書ヲ添付スヘシ

第十四條 處分法第四十八條ニ依リ市町村長ニ於テ送達書類ノ公示ヲ爲シタルトキハ直チニ其公示ノ日時ヲ收入官吏ニ通知スヘシ

第十五條 督促令狀ヲ受タル後チ滯納者又ハ第三者ニ於テ滯納處分費及税金ヲ完納セントスルトキハ收稅署ニ申出收入官吏ヨリ第四號様式ノ納付書ヲ受ケ之ニ現金ヲ添ヘ金庫ヘ拂込ムヘシ(二十六年十二月大藏省令第三十五號ヲ以テ改正)

第十六條 賣却物件ノ買受代金ハ買受人ニ於テ第六號様式ノ納付書ヲ添ヘ之ヲ收入官吏ニ納付スヘシ
(第一號様式以下畧之)

○國稅徵收法(改)明治三十年三月

(正)法律第二十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國稅徵收法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
國稅徵收法

第一章 總則

第一條 國稅ノ徵收ハ關稅其ノ他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノノ外總テ此ノ法律ニ依ル

第二條 國稅ノ徵收ハ總テノ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス

第三條 納稅人ノ財産上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價格ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス

第四條 納稅人國稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受ケ又ハ他ノ債務ニ因リ強制執行若ハ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ納稅人タル會社カ解散ヲ爲シタルトキ亦同シ

納稅人他ノ公課ニ付滯納處分ヲ受ケタルニ因リ國稅ノ徵收ヲ爲ストキハ國稅ハ其ノ滯納處分費ニ對シテ先取セサルモノトス

第二章 徵收

第五條 市町村ハ其ノ市町村内ノ地租及勅令ヲ以テ命シタル國稅ヲ徵收シ其ノ税金ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス

前項地租徵收ノ費用ハ其ノ市町村ノ負擔トシ其ノ他ノ國稅ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ其ノ市町

村ニ交付スヘシ

第六條 國稅ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏又ハ市町村ハ納稅人ニ對シ其納金額、納期日及納付場所ヲ指定シ之ヲ告知スヘシ

第七條 納稅人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調査ノ爲時日ヲ要スルトキハ其ノ間税金ノ徵收ヲ爲ササルコトアルヘシ

第八條 市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ其ノ事實ヲ證明シ大藏大臣ニ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得

前項ノ由出アリタルトキハ大藏大臣ハ其ノ事實ヲ審査シ其ノ免除ヲ爲スコトヲ得

第三章 滯納處分

第九條 國稅ノ納期限ヲ過キ其ノ税金ヲ完納セサル者アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ此ノ場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手数料ヲ徵收ス

第十條 滯納者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ督促手数料及税金ヲ完納セサルトキハ其ノ財産ヲ差押フヘシ

第十一條 收稅官吏滯納處分ノ爲財産ノ差押ヲ爲ストキハ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タルノ證票ヲ示スヘシ

- 第十二條 差押フヘキ財産ノ價格ニシテ滞納處分費及第三條ニ依リ控除スヘキ債務額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滞納處分ノ執行ヲ止ム
- 第十三條 收稅官吏滞納者ノ財産ヲ差押フルニ當リ質權ノ設定セラレタル物件アルトキハ質權設定時期ノ如何ニ拘ラス其ノ質權者ハ質物ヲ收稅官吏ニ引渡スヘシ
- 第十四條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者其ノ財産ニ就キ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却執行ノ五日前マテニ所有者タルノ證據ヲ具ヘテ收稅官吏ニ申出ヘシ
- 第十五條 滞納處分ヲ執行スルニ當リ滞納者財産ノ差押ヲ免ルル爲故意ニ其ノ財産ヲ讓渡シ讓受人其ノ情ヲ知リ讓受ケタル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ノ取消ヲ求ムルコトヲ得
- 第十六條 左ニ掲タル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス
 - 一 滞納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及廚具
 - 二 滞納者及其ノ同居家族ニ必要ナル一箇月間ノ食料及薪炭
 - 三 實印其ノ他職業ニ必要ナル印
 - 四 祭祀禮拜ニ必要ナリト認ムル物及石碑、墓地
 - 五 系譜其ノ他滞納者ノ家ニ必要ナル日記書付類
 - 六 職務上必要ナル制服、祭服、法衣

- 七 勳章其ノ他名譽ノ章票
- 八 滞納者及其ノ同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具
- 九 發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未タ公ニセサルモノ
- 第十七條 左ニ掲タル物件ハ他ニ滞納處分費及税金ヲ償フニ足ルヘキ物件ヲ提供スルトキハ滞納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲サ、ルモノトス
 - 一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並其ノ飼料
 - 二 職業ニ必要ナル器具及材料
 - 第十八條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フモノトス
 - 第十九條 滞納處分ハ裁判上ノ假差押ノ爲ニ其ノ執行ヲ妨ケラル、コトナシ
 - 第二十條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲ストキハ滞納者ノ家屋、倉庫及筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉、筐匣ヲ開カシメ若ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得滞納者ノ財産ヲ占有スル第三者其ノ財産ノ引渡ヲ拒ミタルトキ亦同シ
 - 第三者ノ家屋、倉庫及筐匣ニ滞納者ノ財産ヲ藏匿スルノ疑アルトキハ收稅官吏ハ前項ニ準シ處分スルコトヲ得
 - 前二項ニ依リ家屋、倉庫又ハ筐匣ヲ搜索スルハ日出ヨリ日没マテニ限ル

第二十一條 收稅官吏前條ノ處分ヲ爲ストキハ滯納者若ハ前條ニ掲ケタル第三者又ハ其ノ家族雇人ヲシテ立會ハシムヘシ若シ立會フヘキ者不在ナルトキ又ハ立會ニ應セサルトキハ成丁者二人以上又ハ市町村吏員(市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ區戶長及其ノ附屬吏員)若ハ警察官吏ヲ證人トシテ立會ハシムヘシ

第二十二條 通貨、地金銀、有價證券ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏之ヲ封印シテ其ノ地ノ市町村長(市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ區戶長)ニ保管セシムヘシ

前項ニ掲ケサル物件ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏封印シテ之ヲ保管スヘシ但シ不動産又ハ運搬ヲ爲スニ付困難ナル物件ヲ差押ヘタルトキハ其ノ保管ヲ滯納者又ハ第三者ニ命スルコトヲ得

第二十三條 債權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ債務者ニ通知スヘシ

債務者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ收稅官吏ニ對シテ滯納處分費及税金額ヲ限トシ自己ノ債務ヲ支拂フノ義務ヲ有ス其ノ義務ノ消滅セサル前ニ滯納者ニ對シテ爲シタル支拂ハ無效トス

第二十四條 差押ヘタル有體動産及不動産ハ公賣ニ付ス公賣ノ手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公賣ニ付スルモ買受望人ナキカ又ハ其ノ價額見積價格ニ達セサルトキハ其ノ見積價格ヲ以テ政府ニ買上ルコトアルヘシ

第二十五條 見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ償フニ足ラサル物件ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却ス

ルコトヲ得

第二十六條 滯納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏、公吏、雇員ハ直接ト間接トヲ問ハス其ノ賣却物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十七條 滯納處分費ハ督促手数料、財産ノ差押、保管、運搬及公賣ニ關スル費用、通信費及訴訟費用トス

滯納處分ヲ中止シタル場合ニ於テモ之ニ要シタル處分費用ハ仍之ヲ徵收ス

滯納處分費ハ國稅及第三條ノ債權ニ對シテモ之ヲ先取ス

第二十八條 差押物件ノ賣却代金及差押ヘタル通貨ハ處分費及税金ニ充テ仍殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ

賣却シタル物件質入書入ト爲シタルモノナルトキハ其ノ代金ヨリ先ツ處分費及税金ヲ控除シ次ニ其ノ負債金額ニ充ルマテテ債主ニ交付シ仍殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ但シ第三條ニ掲ケタル質入書入ノ物件ニ關シテハ其ノ代金ヨリ先ツ滯納處分費ヲ徵シ次ニ其ノ負債金額ニ充ツルマテテ債主ニ交付シ次ニ税金ヲ控除シ仍殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ

第二十九條 會社ニ對シ滯納處分ヲ執行スル場合ニ於テ會社財産ヲ以テ滯納處分費及税金ニ充テ仍足アルトキハ無限責任社員ニ就キ之ヲ處分スルコトヲ得

第三十條 滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住居又ハ事務所ニ送達スルモノトス
名宛人ノ住居又ハ事務所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ住居若ハ事務所不明ナルトキハ通
知ノ趣旨ヲ公告シ五日ヲ過クルトキハ其ノ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第三十一條 直接國稅滯納者ノ納稅義務ハ滯納處分ノ結了ヲ以テ終ル滯納處分ノ執行ヲ止メタルト
キ亦同シ

間接國稅ニ付テハ滯納處分結了スルモ滯納處分費及税金ノ完納ニ至ラサルトキハ納期限後一箇年
間ハ隨時其ノ不足額ヲ徵收ス滯納處分ノ執行ヲ止メタルトキ亦同シ

第四章 罰則

第三十二條 滯納者又ハ滯納者ノ財産ヲ占有スル者其ノ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ契約ヲ爲シタ
ルトキハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費消若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同シ
情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虚偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス
前各項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰條アルモノハ本條ヲ適用セス

第五章 附則

第三十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

沖繩縣及東京府管内小笠島、伊豆七島ニハ當分ノ之ヲ施行セス
市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ本法中市町村ニ關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體ハ勅令ヲ以
テ之ヲ指定ス

北海道水産物營業人組合ハ本法ニ於テ市町村ニ準ス

第三十四條 明治二十二年法律第九號國稅徵收法、同年法律第三十二號國稅滯納處分法及同二十三年
法律第四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

行政裁判ニ關スル法令終

明治三十年六月十日印刷
明治三十年六月十五日發行

定價金壹圓五拾錢



行政裁判



發行者兼

小林喜右衛門

東京市日本橋區本石町三丁目十七番地

印刷者

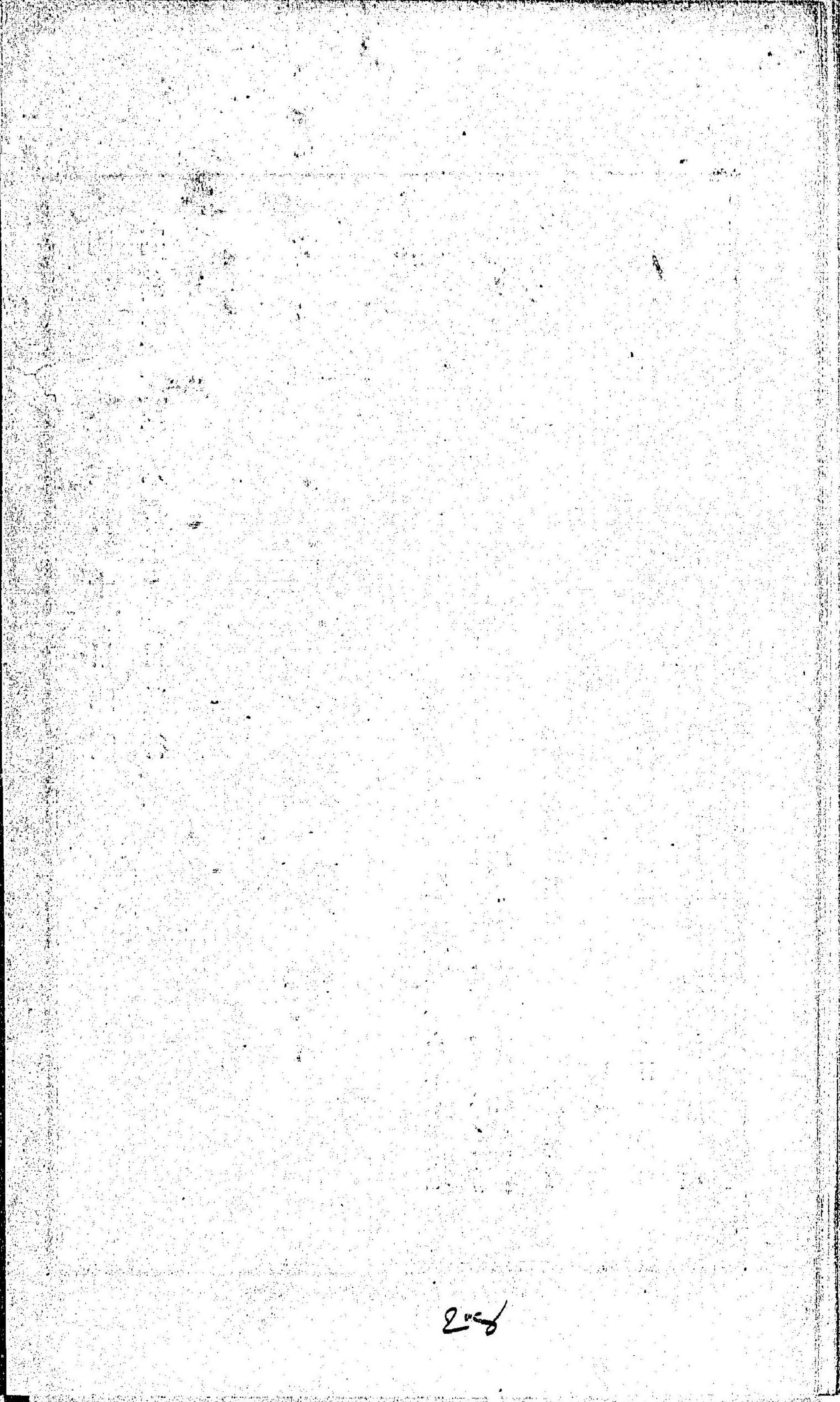
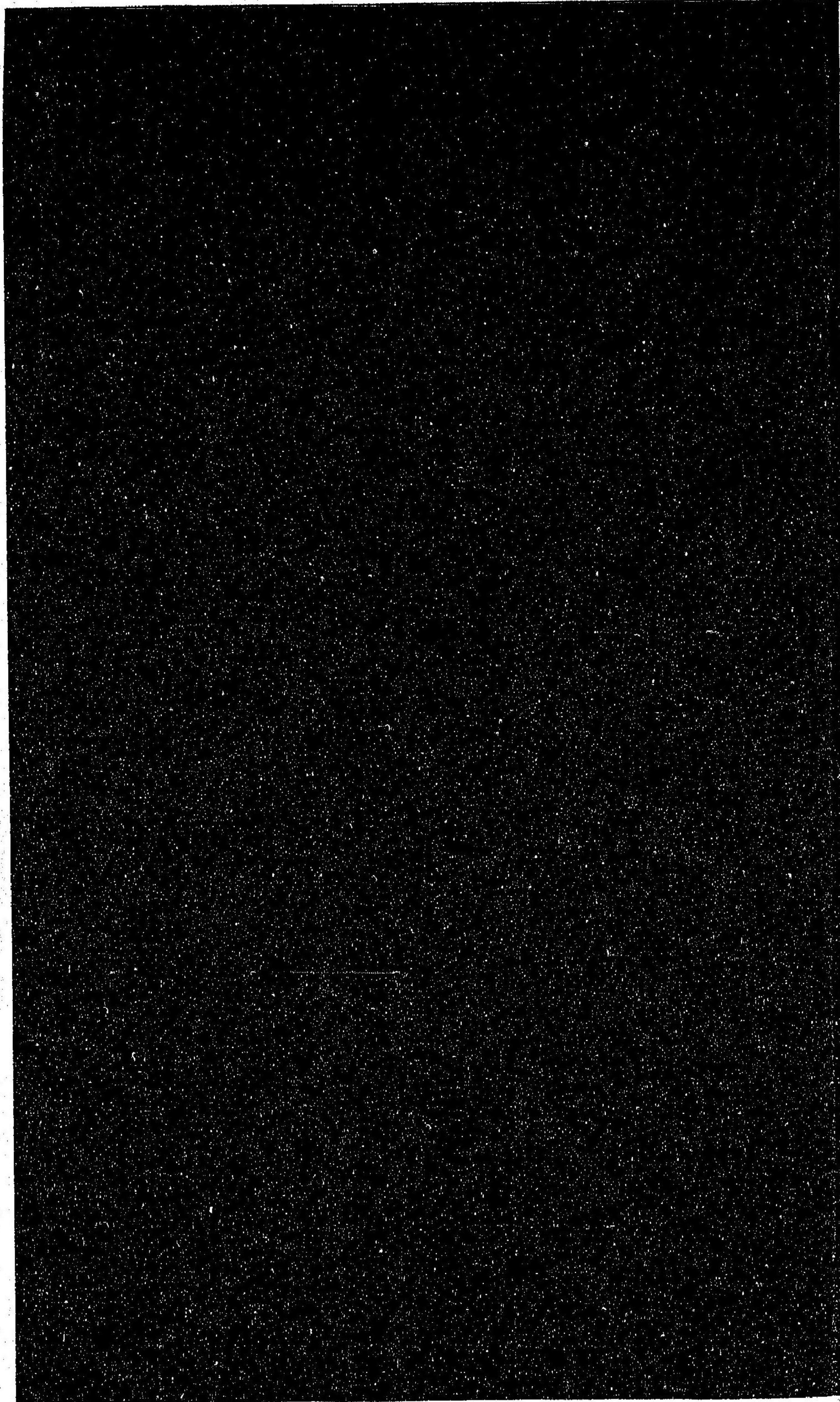
不動慶藏

東京市四谷區市ヶ谷片町三十四番地

印刷所

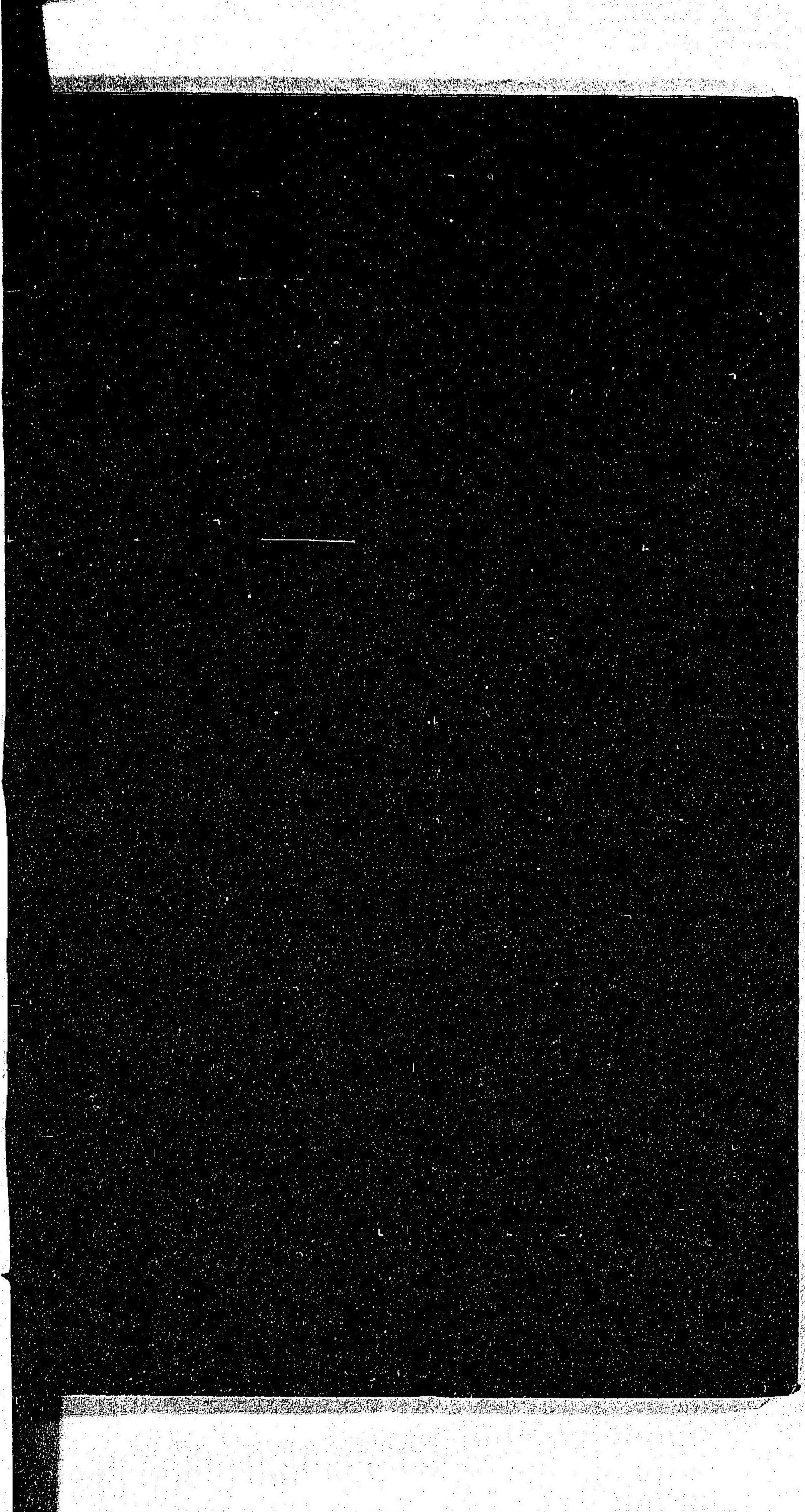
同志社活版所

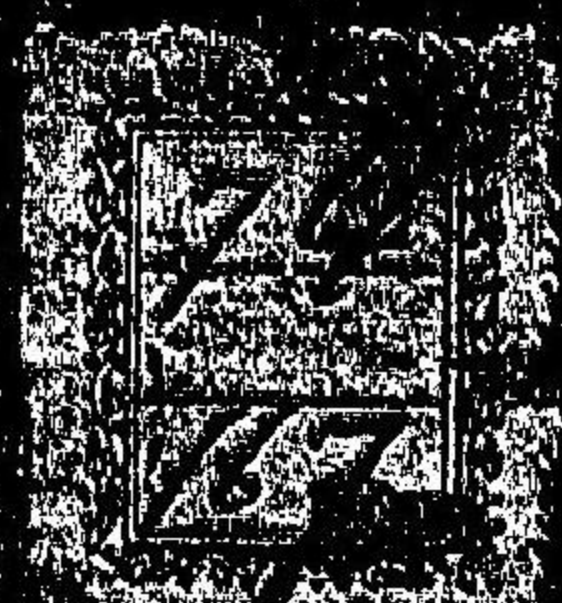
東京市神田區錦町三丁目一番地



208

74
167





禁電子式複写

036375-000-1

CZ-318-01

行政裁判に関する法令

小林喜右衛門

M30

BBR-0022



